

2022 年度
岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業及び
高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業
報 告 書

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター

岩手県高次脳機能障害支援拠点機関

目 次

ご挨拶

I	事業概要	1
II	事業実施報告	4
1	事業報告書	4
2	相談支援状況	7
3	精算書	13
4	会議・研修会・イベント実績	15
5	しずくいしの風～高次脳機能障がいメールニュース～	36
6	高次脳機能障がいカルタ無料配布のお知らせ	42
7	当事者向け自主トレーニングプログラム	44
III	岩手県内の支援拠点機関一覧	100

ご挨拶

いわてリハビリテーションセンター
センター長 佐藤 義朝

初めに、岩手県からの委託事業である高次脳機能障がい支援普及事業においては、年 2 回開催される、高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会での議決や様々なご意見をもとに本事業は展開されており、会長を務められている岩手医科大学理事長の小川 彰先生をはじめ、委員の方々には心より感謝申し上げます。また、障がいと闘っている方々やご家族、家族の会、医療および福祉の関係機関ならびに岩手県のご支援に厚く御礼を申し上げます。

さて、令和 4 年度の本事業についてご報告させていただきますが、新型コロナウイルス感染症の影響から、当事者・家族への支援を目的とした交流会は中止とし、普及啓発を目的とした研修会はオンラインで実施しました。

一方で、「高次脳機能障がいカルタ」について、この障がいについての理解を深めていただくため無料配布を行っておりますが、昨年度から、リハビリを兼ねて自宅でもできるように YouTube チャンネルに読み上げ動画を公開しております。また、注意力向上を目的とした「自主トレプログラム」を作成し、こちらも動画配信を開始いたしました。この「自主トレプログラム」は、様々な点に配慮がなされており、是非一度ご覧いただければ幸いと存じます。

新型コロナウイルス感染症はまだ収束しておりませんが、今後は可能な限りの感染対策を行いながら、対面での支援事業の活動を行って参りたいと考えております。従いまして、今後とも皆様のご協力・ご指導を賜りながら、高次脳機能障がい者ならびにご家族が住み慣れた地域で、安全にかつ安心して暮らしていけるよう、なお一層尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

I 事業概要

高次脳機能障がいへの支援の取組みについて

I 本県における現状と課題

＜障がいの概要＞

脳の器質的病変の原因となる交通事故による受傷や脳卒中等の疾病により発生する、記憶障がい、注意障がい、遂行機能障がい及び社会的行動障がい。

＜対象者数＞

高次脳機能障がい者数（推計）

県全体 2,751人（地区内訳 盛岡1,028人、県南1,054人、沿岸421人、県北248人）

※ 国立障害者リハビリテーションセンターがモデル事業実施時に調査した全国の高次脳機能障がい者数の人口比率を岩手の人口比率に換算して算定したものである。

全国の人口	:	全国の高次脳機能障がい者数	=	県人口 * (A)	:	県内の高次脳機能障がい者数 (B)
128,000,000人	:	274,000人	=	1,284,732人	:	2,751人

* 県人口は、岩手県毎月人口（平成26年9月1日現在）

*（参考）比率：0.00214【B/A】

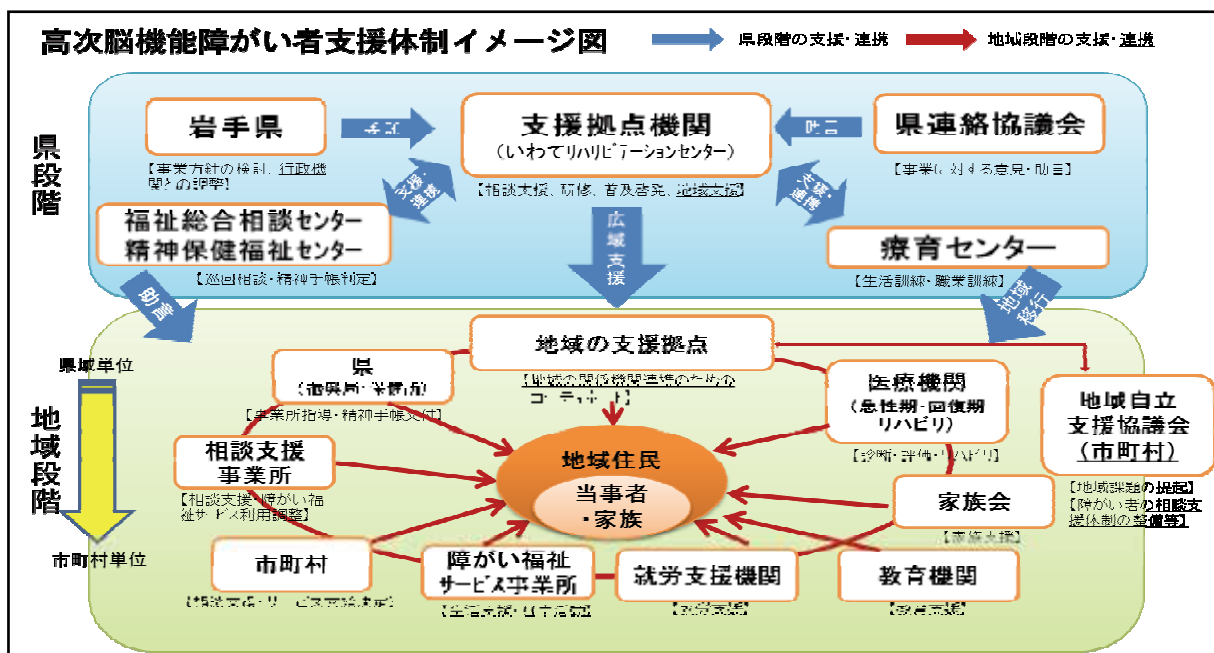
高次脳機能障がい者は、日常生活や社会生活に制約があると診断されれば「器質性精神障害」として、精神障害者保健福祉手帳の申請対象となり、また発症（受傷）が18歳未満で、知的障害と判定された場合に、療育手帳の申請対象となっている。

県内の関係機関で支援を行った高次脳機能障がい者の数が増加している一方、まだ支援実績がない関係機関もあり、関係者の高次脳機能障がいに対する知識や経験が不足している。

また、県民の高次脳機能障がいに関する理解が不足している状況にある。

II 課題への対応（主な取組）

県では、相談支援ネットワークの構築や人材育成、活動交流の場の確保など、高次脳機能障がい者が、孤立せず安心して暮らせる地域づくりに向けて取組を進めている。



1 県の支援拠点機関の設置（いわてリハビリテーションセンター） 平成19年度～

相談支援コーディネーターを配置し、**専門的な相談支援、関係機関との連携、調整**を行う。
また、**普及啓発活動**の他、**支援者を対象とした研修の実施**や**地域支援拠点への訪問等**、**地域での高次脳機能障がい者への取組**を支援する。

【主な取組内容】

(1) 高次脳機能障がい者支援普及事業の実施

① 相談支援の実施

支援拠点機関において、相談支援コーディネーターを配置し、専門的な相談支援及び地域の関係機関との調整を行う。

② 普及啓発活動及び研修の実施

- ・正しい理解の促進のためのHP、パンフレット等による普及啓発や相談窓口の周知。
- ・自治体職員、保健・福祉・医療関係者等を対象とする研修会を開催し、高次脳機能障がいの評価・診断・手法等に関する研修及び普及啓発を実施。
- ・各種会議、研修を通じて行政担当者、相談支援従事者等の連携を推進する。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響から集合研修ではなくオンライン形式での研修会やYouTubeチャンネルへ動画をアップロードすることにより普及啓発を図った。

③ 県連絡協議会の設置・運営

連絡協議会委員による事業全体の検討及び評価を実施する。

令和4年8月18日（木） 15：00～16：30 Web形式

令和5年3月30日（木） 14：00～15：30 Web形式

④ 東北ブロック会議（東北6県持ち回り）の開催

各県及び支援拠点機関等の取組及び現状報告、情報交換等を行う。（書面開催）

(2) 高次脳機能障がい者支援体制整備事業（地域支援）の実施

① 地域支援コーディネーターの配置

地域支援を行うため、支援拠点機関に地域支援コーディネーターを配置する。

② 地域の支援拠点等への訪問支援等

地域の支援拠点等が実施する相談支援やケース会議等への助言や研修の企画支援等を訪問支援等により実施し、相談支援ネットワークの強化を図る。

③ 地域の支援拠点の支援者等育成研修

圏域相談支援コーディネーター研修会

令和4年10月26日（水） 13：00～16：00 Web形式

2 地域の支援拠点の設置 平成27年度～令和元年度

身近な地域で、受傷・発症から社会復帰まで切れ目なく相談・支援を行うことができるよう、順次障がい保健福祉圏域ごとに地域支援拠点を設置し、相談支援体制を整備するとともに、高次脳機能障がいの正しい理解の普及啓発を行う。

1年目	2年目	3年目以降
<p>■ 高次脳機能障がい者 地域支援体制整備事業</p> <p>【概要】 地域の関係機関の連携による相談支援体制を整備するために、地域の支援拠点を設置し、高次脳機能障がい者に対する支援を行う。</p> <p>【内容】</p> <p>① 連絡会の設置・運営 ② 関係機関とのケース会議 ③ 地域の相談支援等 ④ 高次脳機能障がい支援者研修 ⑤ 家族等に対する普及啓発（家族教室等）</p>	<p>■ 高次脳機能障がい者 支援普及事業</p> <p>【概要】 高次脳機能障がいの正しい理解の普及啓発を行う。</p> <p>【内容】</p> <p>⑥ 普及・啓発事業 一般住民、家族、当事者、支援者等への正しい理解の普及啓発</p> <p>※①～⑤は、地域自立支援協議会や市町村の障がい者の相談支援体制等の地域の実情に合わせた既存の枠組みの中で、支援体制整備事業で行ったノウハウを活かした高次脳機能障がい者に対する支援を行っていくもの。</p>	<p>※地域自立支援協議会や市町村の障がい者の相談支援体制等の地域の実情に合わせた既存の枠組みの中で、支援体制整備事業や支援普及事業で行ったノウハウを活かした高次脳機能障がい者に対する支援を行っていくもの。</p>

【実績】

圏域名	H27年度実績	H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績	R1年度実績
気仙、宮古	体制整備事業	支援普及事業			
久慈、二戸		体制整備事業	支援普及事業		
胆江、釜石			体制整備事業	支援普及事業	
盛岡、中部				体制整備事業	支援普及事業

【地域の支援拠点の設置状況】

年度	圏域	委託先	地域の支援拠点
27	気仙	社会福祉法人大洋会	地域活動支援センター星雲 相談室
	宮古	NPO 法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット	相談支援事業所れいんぼー
28	久慈	社団医療法人祐和会	地域生活支援センター久慈
	二戸	社会福祉法人カシオペア障連	地域生活支援センター・カシオペア
29	釜石	釜石大槌地域障がい者自立支援協議会	地域活動支援センター釜石
	胆江	奥州市	愛護会障害者相談支援センター
30		社会福祉法人フレンドシップいわて	指定相談支援事業所サポートにじ
30	盛岡	NPO 法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ
	中部	NPO 法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ県南地区
	両磐	—	—

※ 両磐圏域については、圏域内の市町や関係機関と協議を重ねた結果、県の委託による事業は実施せず、既存の相談支援体制により対応されることとなったため、委託先及び地域の支援拠点はなし。

II 事業実施報告

1 事業報告書

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業

岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業「県の支援拠点機関による地域支援」

令和4年度事業報告書

1 令和4年度の重点事項

- (1) 地域の実情に合わせて、高次脳機能障がい者の受け入れの拡大を図る。
- (2) 地域の支援ネットワークの構築に向けて、関係機関の調整を図る。

2 支援ネットワーク構築のための連絡協議会の開催

- (1) 高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会
 - ① 第1回 令和4年8月18日 Web（出席者23名）
 - ② 第2回 令和5年3月30日 Web（出席者24名）
- (2) 圏域相談支援コーディネーター会議
令和4年10月26日 Web（出席者17名）

3 事業運営のための会議の開催

- (1) 高次脳機能障がい者支援担当者会議 12回開催
- (2) 高次脳機能障がい者カンファレンス 8回開催

4 専門的な相談支援体制の整備

相談支援コーディネーター4名（MSW2名、心理士2名）を配置し、専門的な相談支援及び関係機関との連絡調整を行った。

- (1) 当事者及び家族の相談支援 のべ804件（4/1～3/31まで）【参考】R3同期間のべ923件

相談及び対応の方法	件数	【参考】R3	比較増減
電話	232件	167件	+65
来院／来所	494件	739件	-245
メール・書簡	45件	12件	+33
その他（訪問・同行等）	33件	5件	+28

- (2) 機関及び施設等の相談支援 のべ308件（4/1～3/31まで）【参考】R3同期間のべ227件

相談及び対応の方法	件数	【参考】R3	比較増減
電話	248件	147件	+101
来院／来所	12件	17件	-5
メール・書簡	47件	62件	-15
その他（訪問・同行等）	1件	1件	±0

5 支援の普及に向けた研修会の開催

- (1) 高次脳機能障がい圏域コーディネーター研修会（圏域のコーディネーター対象）
令和4年10月26日 いわてリハビリテーションセンター研修室（参加者4名）
- (2) 高次脳機能障がい支援研修会（医師及びコメディカル対象）
令和5年3月9日、3月11日 オンラインで動画配信（合計70アクセス）うち医師11名
- (3) 高次脳機能障がい支援研修会（地域の支援者対象）
令和5年3月16日、3月18日 オンラインで動画配信（合計60アクセス）
- (4) フォーラム（県民対象）
令和4年10月1日アイーナにて開催のいわてリハビリテーションフォーラムにて、高次脳機能障がいの資料展示及びトートバッグの配布を行った。

6 地域における支援体制整備のための支援

- (1) 気仙圏域：地域支援拠点機関の星雲相談室と協働して地域支援体制の整備を図った。
 - ①連絡会
令和4年12月8日（職員1名派遣）
 - ②家族交流会
令和4年10月22日（職員1名派遣）
- (2) 宮古圏域
 - ①連絡会
令和5年3月20日（職員1名派遣）
- (3) 二戸圏域：地域生活支援センター・カシオペアと協働して地域支援体制の整備を図った。
 - ①家族会
令和4年7月9日（職員1名派遣）

7 事業周知のためのPR・広報活動の実施

- (1) 当センターホームページにて、県内の研修情報を掲載した。
- (2) メールニュースを配信し、高次脳機能障がいに対する理解と支援の拡大を図った。
- (3) カルタの無料配布を継続して実施した。申し込みに応じてカルタを郵送した。

8 当事者・家族を中心とした普及啓発事業の実施

- (1) 高次脳機能障がい当事者・家族の方のためのZOOMの使い方講座
当事者・家族を対象とし、ZOOMの基本について実践を通して学べる研修会を開催した。
令和4年10月16日 当事者8名、家族8名参加
- (2) 当事者のためのオンラインサロンの開催
ZOOMの使い方講座に参加した方を主な対象とし、オンラインサロンを開催した。
令和4年11月13日 当事者5名参加
令和5年3月12日 当事者4名参加
- (3) 「100円グッズを使って家庭で出来る！脳と身体を鍛える自主トレプログラム」の動画作成
R3年度に作成した「カード探し」「数字探し」の動画に追加して、「デコレーションボール」「旗あげゲーム」の動画を、初級・中級・上級の難易度別に作成した。
- (4) 「100円グッズを使って家庭で出来る！脳と身体を鍛える自主トレプログラム」の冊子作成
R3年度、4年度に作成した「カード探し」「数字探し」「デコレーションボール」「旗あげゲーム」のプログラムを難易度別に紹介する冊子を作成した。

9 全国・東北ブロック組織及び県内関係機関との連携・協力

(1) 会議及び研修会等での連携

会議名・研修会名等	期日	場所・方法	出席者等
高次脳機能障害全国連絡協議会 第1回	6/29	Web	4名（県庁・リハセン担当者）
第2回	2/17	Web	3名（県庁・リハセン担当者）
高次脳機能障害東北ブロック会議		書面開催	
雫石町民生委員・児童委員研修	10/27	雫石町	講師として職員1名派遣
いわて脳損傷リハビリテーション講習会	12/14	Web	実行委員として職員3名対応

(2) 機関としての連携

①いわて高次脳機能障害友の会「イーハトーヴ」

・研修会及び講習会の開催、地域支援拠点機関の支援について連携協力を行った。

②岩手県立療育センター

・共通して支援を行ったケースについて情報交換を行った。

③岩手障害者職業センター

・高次脳機能障がいへのケース支援を協働で行った。

10 コーディネーターのスキルアップのための研修派遣

(1) 高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

第1回 令和4年6月29日 Web開催（職員3名参加）

第2回 令和5年2月17日 Web開催（職員1名参加）

(2) 高次脳機能障害サポーター養成講座（ハイブリッド形式）

令和4年7月～10月 計4回（職員4名参加）

(3) 日本高次脳機能障害友の会 2022年オンライン全国大会

令和5年1月15日 Web開催（職員1名参加）

2 相談支援状況

いわてリハビリテーションセンター

高次脳機能障害支援状況（令和4年度）

	新規	継続	主治医		方法								カンファレンス	合計	備考
					面談		電話		訪問		文書				
			当院	他院	直接	間接	直接	間接	直接	間接	直接	間接			
4月	5	96	79	22	65	0	9	15	1	0	8	0	3	101	
5月	4	73	63	14	46	0	15	5	2	0	2	2	5	77	
6月	5	81	56	30	45	0	19	12	1	0	2	4	3	86	
7月	4	111	93	22	57	1	11	28	1	0	5	10	2	115	
8月	9	82	77	14	41	2	12	22	1	1	3	8	1	91	
9月	10	89	62	37	30	1	22	39	1	0	2	4	0	99	
10月	9	105	85	31	39	1	22	33	2	0	11	4	2	114	
11月	6	122	83	45	49	0	34	29	1	0	7	5	3	128	
12月	4	60	21	43	23	1	22	13	0	0	3	0	2	64	
1月	6	71	51	26	31	4	19	11	0	0	2	8	2	77	
2月	8	64	21	51	33	0	18	21	0	0	0	0	0	72	
3月	8	80	35	53	35	2	29	20	0	0	0	2	0	88	
合計	78	1034	726	388	494	12	232	248	10	1	45	47	23	1112	

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
外来受診	3	0	10	7	10	28	21	19	28	5	32	14	177	
入院検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
診断/評価	15	2	7	4	13	8	7	21	19	12	12	3	123	
医療/生活	0	1	2	1	0	6	7	3	0	0	1	7	28	
交通事故関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
障害者手帳関係	0	3	0	2	1	4	11	1	0	3	7	8	40	
福祉サービス利用	22	12	6	9	2	13	24	13	6	1	8	3	119	
年金/社会保障制度	0	1	0	1	1	6	2	8	4	12	7	22	64	
日常生活	23	14	14	29	11	2	9	10	2	6	11	7	138	
家族/対人関係	4	2	0	2	0	3	1	1	0	1	0	0	14	
復学/教育	2	0	4	0	7	0	0	0	0	3	2	1	19	
復職/就業	49	43	34	63	53	36	48	50	12	32	7	10	437	
職業訓練/評価	0	0	7	0	0	4	2	0	0	0	0	0	13	
自動車運転関係	7	2	15	16	12	30	21	30	22	9	16	10	190	
障害理解/対応	6	5	8	1	1	2	3	6	0	2	1	1	36	
家族会関係	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
その他	1	1	0	1	0	0	0	8	0	0	0	0	11	

令和4年度 高次脳機能障がい者支援普及事業相談支援状況報告書

いわてリハビリテーションセンター

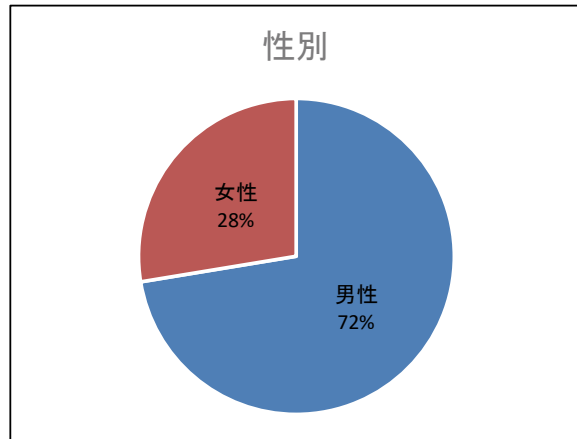
【相談支援の概要】

- 1 相談件数 延べ1,112件 (4/1~3/31) 実人数116人
※令和3年度同期間実績:1,171件(実人数107名)

2 相談対象者の属性

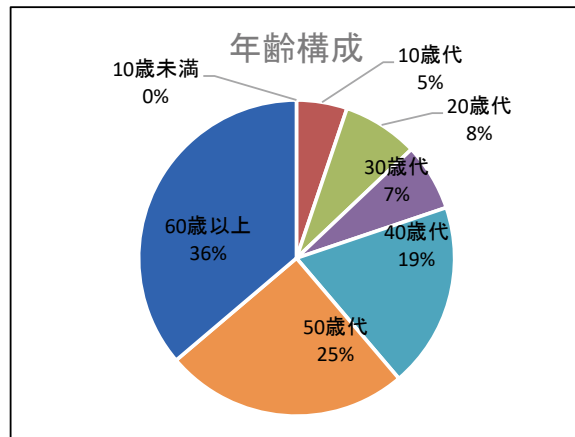
(1) 性別

男性：84名 (72%)
女性：32名 (28%)



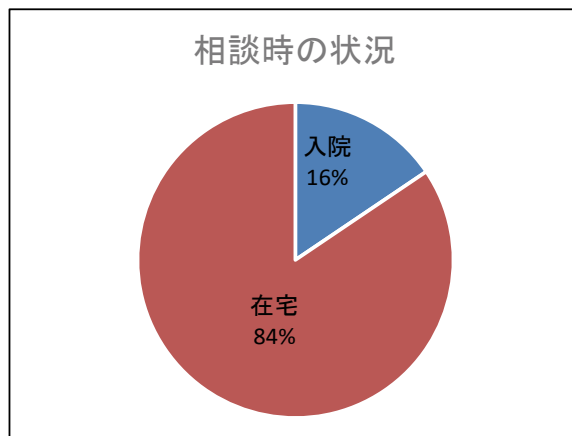
(2) 年齢構成

10歳未満： 0名 (0%)
10歳代： 6名 (5%)
20歳代： 9名 (8%)
30歳代： 8名 (7%)
40歳代： 22名 (19%)
50歳代： 29名 (25%)
60歳以上： 42名 (36%)



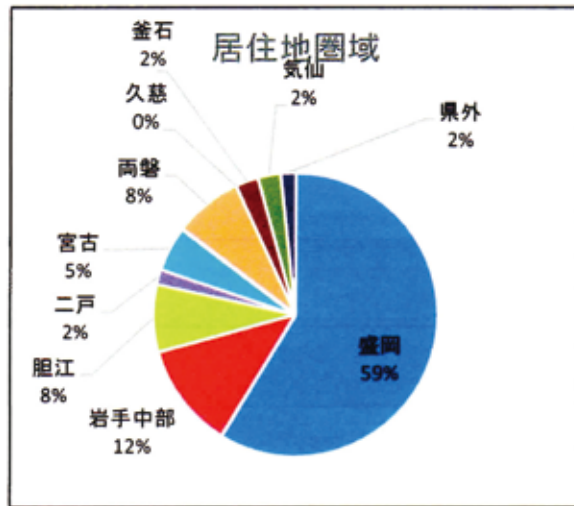
(3) 相談時の状況

入院中：18名 (16%)
在宅：98名 (84%)



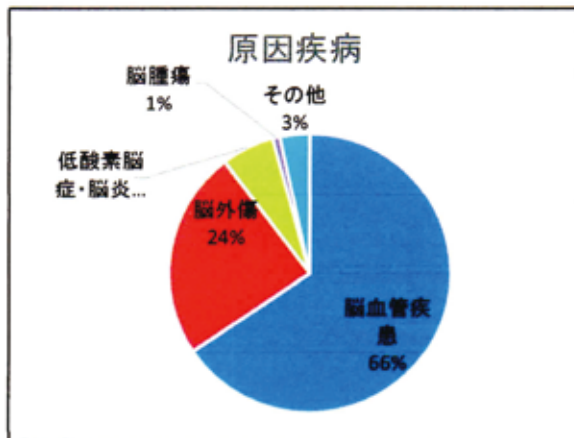
(4) 居住地圏域

盛岡	: 68名 (59%)
岩手中部	: 14名 (12%)
胆江	: 9名 (8%)
二戸	: 2名 (2%)
宮古	: 6名 (5%)
両磐	: 9名 (8%)
久慈	: 0名 (0%)
釜石	: 3名 (2%)
気仙	: 3名 (2%)
県外	: 2名 (2%)



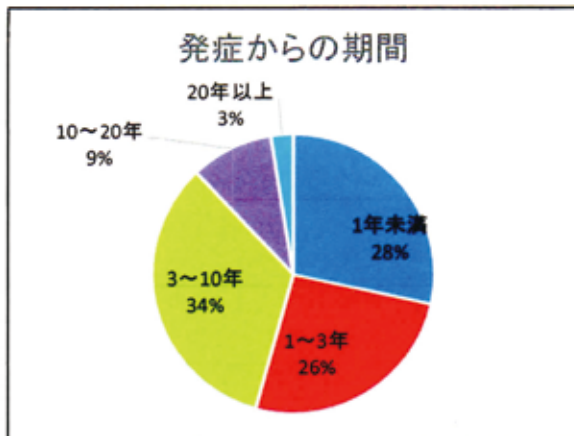
(5) 原因傷病

脳血管疾患	: 76名 (66%)
脳外傷	: 28名 (24%)
低酸素脳症・脳炎	: 7名 (6%)
脳腫瘍	: 1名 (1%)
その他	: 4名 (3%)



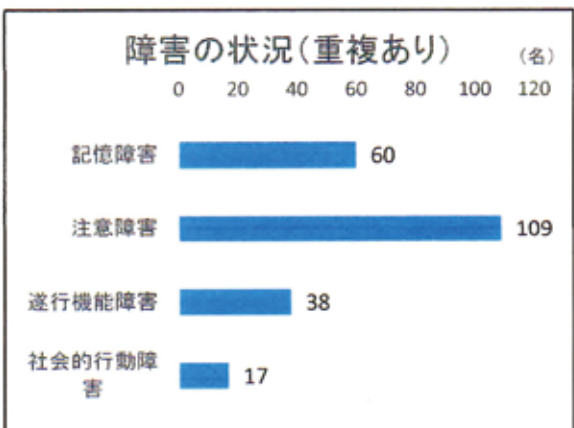
(6) 発症からの期間

1年未満	: 33名 (28%)
1～3年	: 30名 (26%)
3～10年	: 39名 (34%)
10～20年	: 11名 (9%)
20年以上	: 3名 (3%)



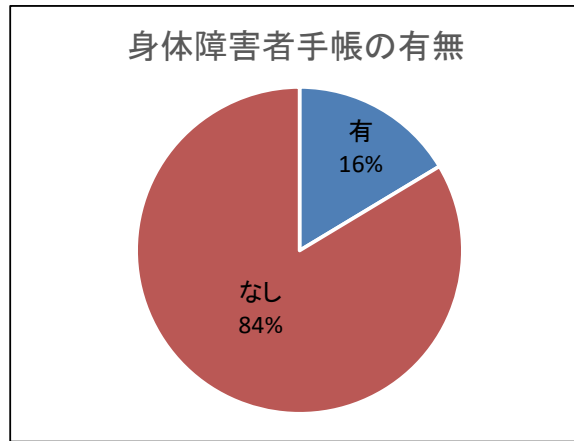
(7) 障害の状況 (重複あり)

記憶障害	: 60名
注意障害	: 109名
遂行機能障害	: 38名
社会的行動障害	: 17名



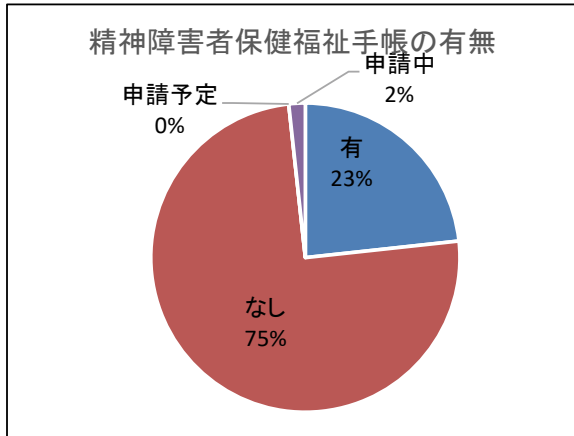
(8) 身体障害者手帳の有無

有 : 19名 (16%)
なし : 97名 (84%)



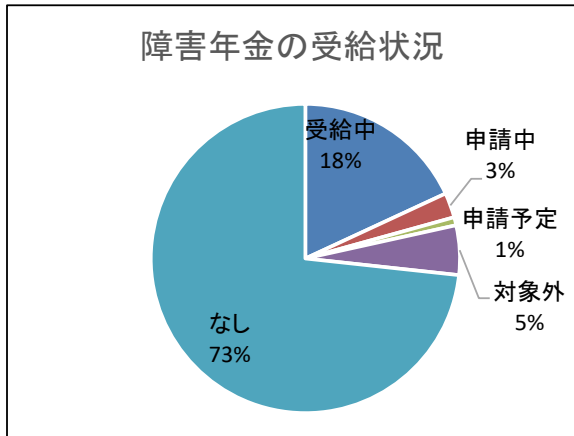
(9) 精神保健福祉手帳の有無

有 : 27名 (23%)
なし : 87名 (75%)
申請予定 : 0名 (0%)
申請中 : 2名 (2%)



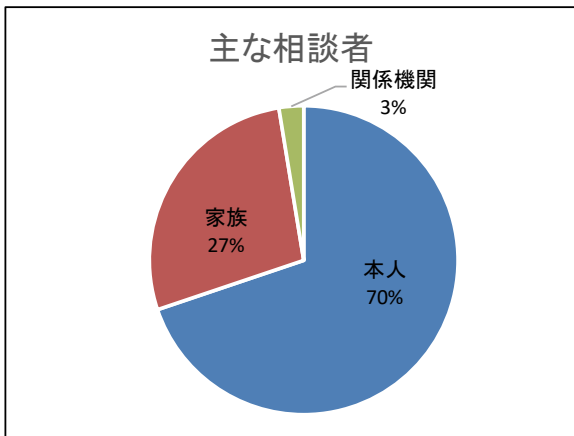
(10) 障害年金の受給状況

受給中 : 21名 (18%)
申請中 : 3名 (3%)
申請予定 : 1名 (1%)
対象外 : 6名 (5%)
(対象外内訳: 未成年、受給資格なし)
なし : 85名 (73%)
(なし内訳: 希望無し、老齢年金受給中)



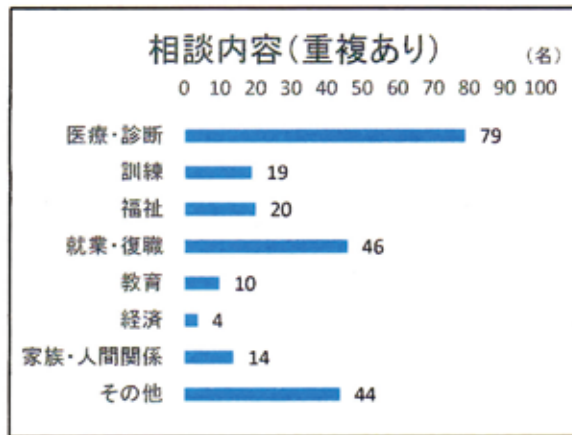
3 主な相談者

本人 : 81名 (70%)
家族 : 32名 (27%)
関係機関 : 3名 (3%)



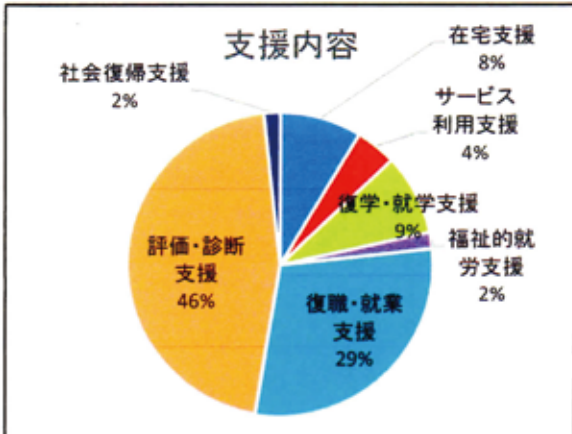
4 相談内容（重複）

医療・診断	: 79名
訓練	: 19名
福祉	: 20名
就業・復職	: 46名
教育	: 10名
経済	: 4名
家族・人間関係	: 14名
その他	: 44名



5 支援内容

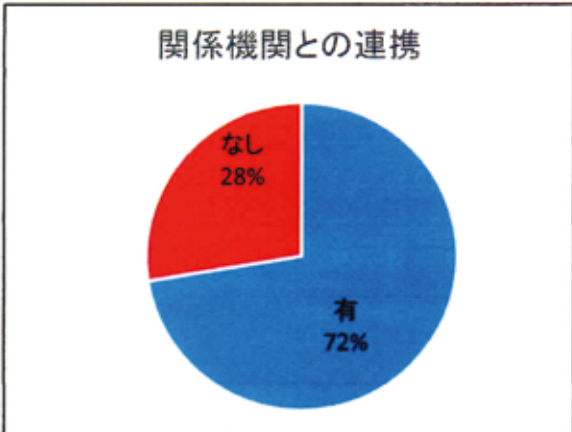
在宅支援	: 10名 (8%)
サービス利用支援	: 5名 (4%)
復学・就学支援	: 10名 (9%)
福祉的就労支援	: 2名 (2%)
復職・就業支援	: 34名 (29%)
社会復帰支援	: 2名 (2%)
評価診断支援	: 53名 (46%)



6 関係機関との連携

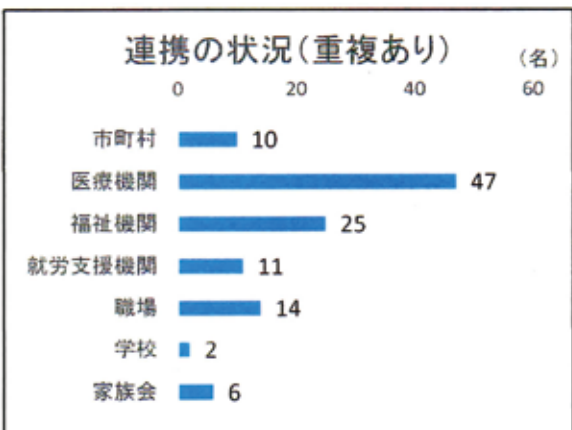
(1) 連携の有無

有	: 84名 (72%)
なし	: 32名 (28%)



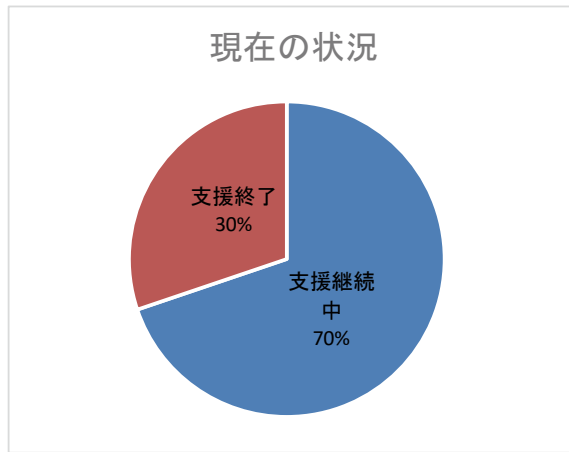
(2) 連携の状況（重複）

市町村	: 10名
医療機関	: 47名
福祉機関	: 25名
就労支援機関	: 11名
職場	: 14名
学校	: 2名
家族会	: 6名



7 現在の状況

支援継続中 : 81名 (69%)
 支援終了 : 35名 (31%)



8 支援の結果

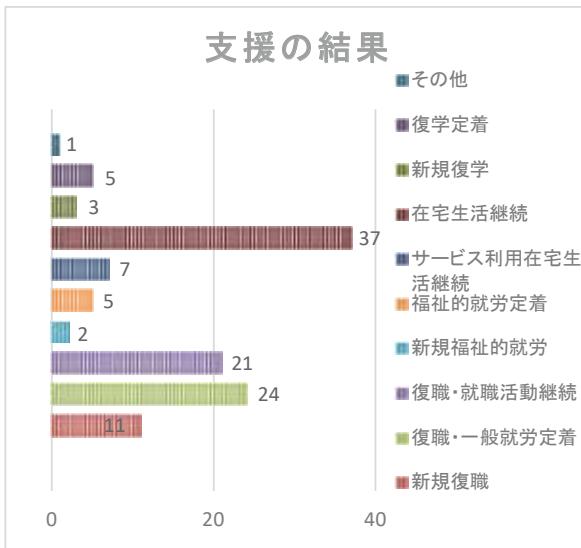
☆新規一般就労 : 0名 小計56名
 ☆新規復職 : 11名
 復職・就労定着 : 24名
 復職・就職活動継続 : 21名

☆新規福祉的就労 : 2名 小計7名
 福祉的就労定着 : 5名

サービス利用
 在宅生活継続 : 7名 小計44名
 在宅生活継続 : 37名

☆新規復学 : 3名 小計8名
 復学定着 : 5名

その他 : 1名 小計1名



9 相談支援例

- ・ 障害者職業センターと連携し職場復帰や福祉的就労から社会参加を支援しているケース
- ・ 職場復帰後のフォローアップを継続しているケース
- ・ 復学後のフォローアップを継続しているケース
- ・ 生生学舎アダージョと連携のうえ、相互で訓練を行っているケース
- ・ 地域の病院からの検査及び評価依頼に関わったケース
- ・ 当センター退院後も外来でフォロー継続し、目標（復学定着や就労定着等）をクリアしたことで外来フォロー終了となり、地域の支援機関へ申しお送りを行ったケース

10 その他

自動車運転再開に関する新規の相談件数が増加してきている
 自動車運転が復職や就労の条件となっているケースも多い

令和元年度 : 6件
 令和2年度 : 20件
 令和3年度 : 26件
 令和4年度 : 30件

3 精算書

令和4年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業収支精算書

収入

単位:円

科目	予算額	精算額	差額	摘要
1 委託料収入	3,461,590	3,461,590	0	岩手県
2 自己資金	0	9,727	△ 9,727	
合計	3,461,590	3,471,317	△ 9,727	

支出

単位:円

項目	予算額	精算額	差額	摘要
1 人件費支出	1,415,000	1,668,629	△ 253,629	担当職員分人件費
2 諸謝金	438,000	328,170	109,830	委員及び講師等報償費
3 旅費交通費	135,000	0	135,000	
4 印刷製本費	552,000	740,520	△ 188,520	事業報告書及び支援ガイドの印刷代等
5 通信運搬費	362,000	419,308	△ 57,308	HP更新及びオンライン研修の配信経費等
6 会議費	39,900	0	39,900	
7 賃借料	205,000	0	205,000	
8 租税公課	314,690	314,690	0	消費税
合計	3,461,590	3,471,317	△ 9,727	

令和4年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備業
「県の支援拠点機関による地域支援」収支精算書

収入

単位:円

科目	予算額	精算額	差額	摘要
1 委託料収入	5,917,065	5,917,065	0	岩手県
2 自己資金	0	84,102	△ 84,102	
合計	5,917,065	6,001,167	△ 84,102	

支出

単位:円

項目	予算額	精算額	差額	摘要
1 人件費支出	3,400,000	3,468,558	△ 68,558	職員分人件費
2 諸謝金	50,000	0	50,000	研修会講師謝金
3 旅費交通費	548,000	41,940	506,060	支援コーディネーター等の研修旅費
4 印刷製本費	775,000	903,100	△ 128,100	トートバックの作成経費等
5 通信運搬費	207,200	458,150	△ 250,950	オンライン研修の配信経費等
6 賃借料	394,000	591,504	△ 197,504	公用車及び、パソコンリース料等
7 会議費	4,950	0	4,950	
8 租税公課	537,915	537,915	0	消費税
合計	5,917,065	6,001,167	△ 84,102	

4 会議・研修会・イベント実績

● 会議

開催日	会議名	参加者数	備考
令和4年 8月18日	第1回岩手県高次脳機能障がい者 支援普及事業連絡協議会	23名	Web開催
令和4年 10月26日	圏域相談支援コーディネーター会議	17名	Web開催
令和5年 3月30日	第2回岩手県高次脳機能障がい者 支援普及事業連絡協議会	24名	Web開催

● イベント

令和4年10月1日アイーナにて開催のいわてリハビリテーションフォーラムで
高次脳機能障がいの資料展示及びトートバッグの配布を行った。

● 研修会

日	研修会名	講師・報告者	参加者数
令和4年 10月26日	圏域相談支援コーディネーター研修会 【テーマ】 ホストとしてのZOOMの使い方	リードコナン	4名
令和5年 3月9日 3月11日	高次脳機能障がい者支援研修会 (医師及びコメディカル対象) 【テーマ】 脳卒中後の治療と就労の両立支援	中国労災病院 治療就労両立支援センター 所長 豊田 章宏 氏	WEB 70 ア ク セ ス
令和5年 3月16日 3月18日	高次脳機能障がい支援研修 (医療・福祉、行政関係対象等支援者) 【テーマ】 講演① 高次脳機能障害の方の「生活と支援の実際」 講演② 高次脳機能障害の方の「復職・就労支援」 ※「厚生労働科学研究：高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキスト開発のための研究 班」作成の講義動画を使用	講演① 名古屋市総合リハビリテーションセンター 自立支援部 就労支援課長 稲葉 健太郎 氏 講演② 札幌国際大学 教授 青木 美和子 氏	WEB 60 ア ク セ ス

令和4年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業 圏域相談支援コーディネーター研修会開催要綱

1 目的

新型コロナウイルスの流行により、会議、研修会はオンラインで開催することが増えて
います。本研修会はこの障がいの支援を行う専門職を対象に、オンラインでの会議・研修
会の主催の方法を学び、地域での支援ネットワークの推進につなげることを目的に開催し
ます。

2 主催

公益財団法人いわてリハビリテーションセンター

3 期日

令和4年10月26日（水） 13：00～16：00

4 場所

いわてリハビリテーションセンター 研修室

5 対象

圏域相談支援コーディネーター

6 内容

13：00	開会
13：00～14：30	研修：「ホストとしての ZOOM の使い方」 講師：リードコナン
14：30～16：00	演習・質疑応答
16：00	閉会

7 持ち物

ノートパソコン

※事業所または個人で使用しているパソコンの持ち込みをお願いします。

持ち込みが難しい場合は貸出もできますので、ご相談ください。

8 その他

午前中の会議に参加される場合は、会議も当センター研修室でご参加いただけます。

高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）開催要綱

1 目的

「見えない障害」といわれる高次脳機能障がい者の支援に関わっている、あるいは関わる可能性のある医師及び医療従事者を対象として開催します。本事業は岩手県の委託事業として実施するものです。

2 主催

いわてリハビリテーションセンター

3 共催

岩手高次脳機能障害研究会

4 後援

岩手県医師会

5 期日

※ZOOMを使用したオンラインでの配信になります。1回目と2回目は同じ内容です。

配信1回目：令和5年3月9日（木）19：00～20：40

配信2回目：令和5年3月11日（土）13：30～15：10

6 対象

県内の脳神経外科、脳神経内科、リハビリテーション科、神経精神科、精神科、救急科等の医師及びコメディカル

7 内容

講演：「脳卒中後の治療と就労の両立支援」

講師：中国労災病院 治療就労両立支援センター 所長 豊田 章宏 先生

座長：岩手医科大学付属病院 病院長 小笠原 邦昭 先生

8 参加経費

研修参加費 無料

9 申込方法等

オンライン（ZOOM）での配信になります。

参加希望の方は裏面「申し込み方法」を確認のうえ、メールで申し込みをお願いします。

10 問い合わせ先

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当〈担当：大江・上田〉

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243 TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

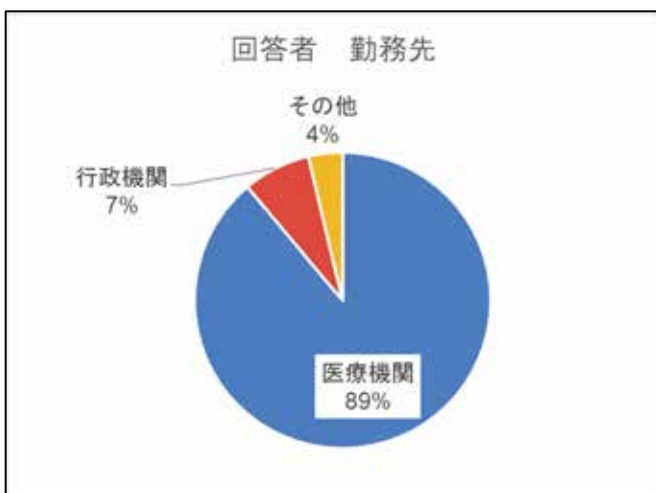
高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）アンケート結果

開催日：令和5年3月9日（木）、11日（土）

回答数：54

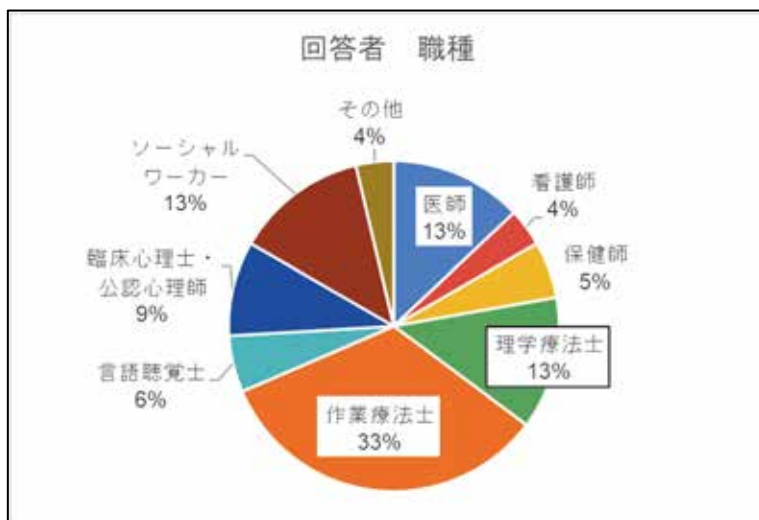
1. 回答者の勤務先

勤務先	回答数
医療機関	48
行政機関	4
その他	2
合計	54



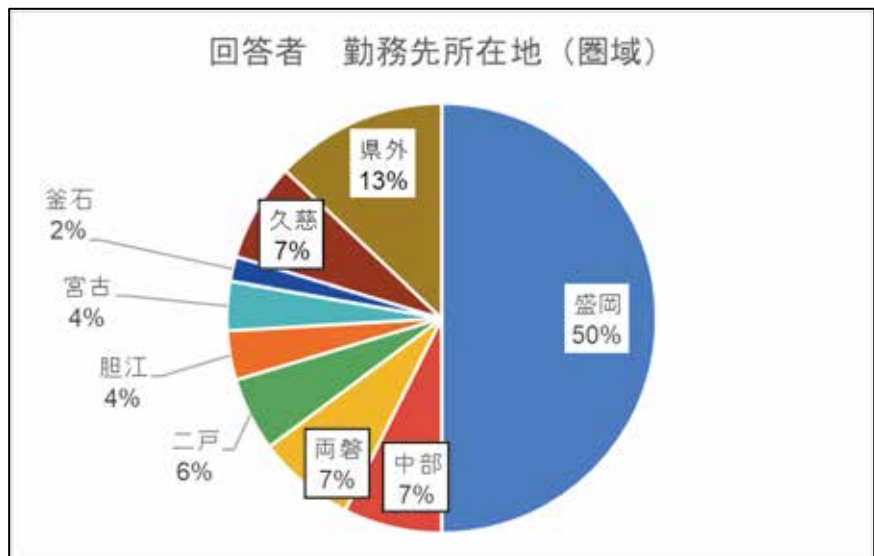
2. 回答者の職種

職種	回答数
医師	7
看護師	2
保健師	3
理学療法士	7
作業療法士	18
言語聴覚士	3
臨床心理士・公認心理師	5
ソーシャルワーカー	7
その他	2
合計	54



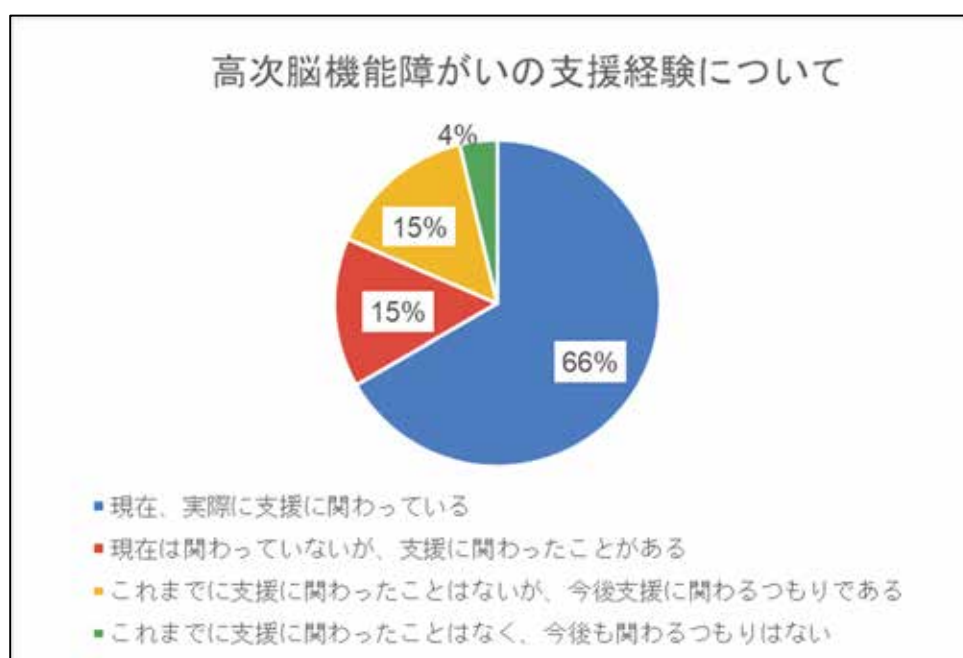
3. 回答者の勤務先所在地

圏域	数
盛岡	27
中部	4
両磐	4
二戸	3
胆江	2
宮古	2
釜石	1
久慈	4
県外	7
合計	54



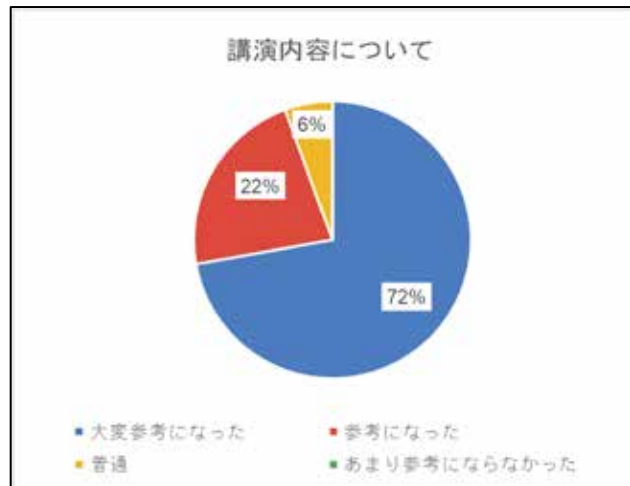
4. 高次脳機能障がいの支援経験について

支援経験について	回答数
現在、実際に支援に関わっている	36
現在は関わっていないが、支援に関わったことがある	8
これまでに支援に関わったことはないが、今後支援に関わるつもりである	8
これまでに支援に関わったことはなく、今後も関わるつもりはない	2
合計	54



5. 講演の内容について

講演内容について	回答数
大変参考になった	39
参考になった	12
普通	3
あまり参考にならなかった	0
合計	54



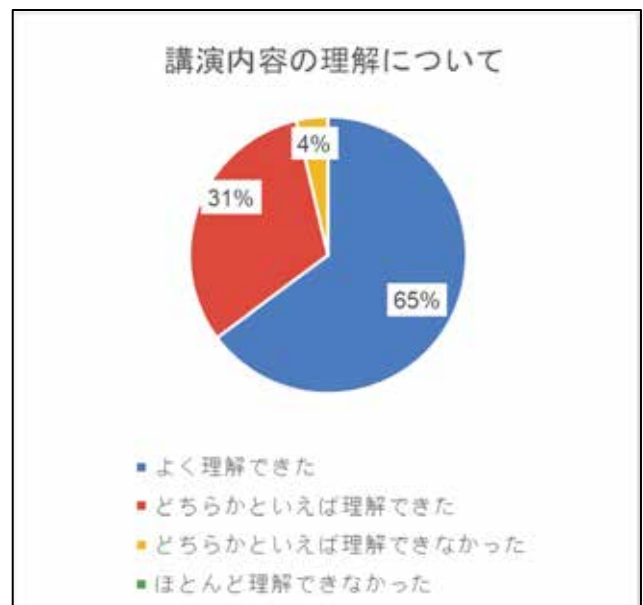
6. 講演の内容について、意見・感想・もう少し詳しく聞きたかったこと等をご記入ください。

- ・両立支援の進め方について具体的なお話を伺うことができ、大変勉強になりました。
- ・脳卒中（高次脳機能障害）の方の事例をあと2例くらいあれば、さらに良かった。復職が成功しなかった事例も知りたいと思います。
- ・両立支援コーディネーターについて理解を深めるきっかけにつながりました。
- ・就労支援コーディネーターが岩手にも普及していることを知らなかった。今回たくさんの現状を教えてください実感が湧いた。
- ・実際に紹介された事例の方はどのような経路で新規雇用の求人を得たのか気になりました。
- ・急性期病院勤務で職場復帰に至るまで患者様と関わる機会がないので、実際の事例や体験談等大変貴重な講義でした。
- ・高次脳機能障害をもった方と医療従事者との考えのギャップや、生活を安全に送ることをゴールとしないといけないという点が特に印象深く残りました。
- ・回復期の「FIM」の数値など、基準になるものの説明がもう少し聞きたかった。
- ・職場復帰に上手く繋がらされた症例、難渋した症例の具体的な支援内容や経過が詳しく知りたい。
- ・"恥ずかしながら、両立支援コーディネーターの存在を初めて知りました。勉強になりました。実際の就労支援の事例を紹介いただき、イメージが掴めてよかったです。"
- ・分かりやすく、基礎知識から現場の現状までご講演いただき大変勉強になりました。障害受容に対する支援について知りたいと思いました。
- ・両立支援コーディネーターというものを今回のご講義で初めて知りました。
産業保健総合支援センターにおいて相談・支援対象者は、自営業の方も含まれるのでしょうか？
- ・医療職として、患者様やご家族の背景に視点を向け復職に関われるように、色々な立場でみていけるようになりたいと思いました。
- ・高次脳機能障害の支援に関わって歴はまだ浅いですが、働く世代の方の相談も多くいただくので、こういった就労や復職と医療を併せた研修内容はとても参考になりました。

- ・ICIDH から ICF への流れは日々の臨床でも意識している項目です。現在外来において、生活期における復職困難を抱えた高次脳機能障がいの方と接している中で、伴走者として両立支援コーディネーターや療養相談についての基礎研修に大変興味を持ちました。
- ・高次脳機能障害の方の支援については経験もなくほとんど知識がなかったが、講演を拝聴し支援のポイント的な部分を学ぶことができたように思う。両立支援の体制が我が地域でも早期に整えられ、高次脳機能障害の方の支援への理解が進めばよいと思う。
- ・現状として、日々の業務では生活期での関わりが多くあります。早期より職業復帰に関する情報共有や連携が、対象となる方の予後の人生の幅をより広げれると思っていました。今回、両立支援コーディネーターの養成について初めて知る機会を得ました。興味があり、今後のために、より詳しく調べ、日々の業務に生かしていければと思います。とても勉強になった研修でありました。ありがとうございました。
- ・"福祉の立場なので、わからないこともあったのですが、大変よくわかりました。両立支援ができる医療機関が増えていくと良いと思えました。
- ・両立支援の流れの中で福祉サービス等のことは入っていないのですが、福祉サービス利用の方も両立支援のコーディネーターが関わっていただけるのでしょうか。また復職や再就労された方はその後も支援していただける仕組みなのでしょうか？いわゆるアフターフォロー的な？"
- ・現在勤務している病院では MSW が、両立支援コーディネーターのような支援をしています。両立支援コーディネーターに介入を依頼するメリットがどのくらいあるのか、具体的な支援内容をもう少し聞けたら良いなと思いました。ありがとうございました。
- ・両立支援コーディネーターになりよりよい支援の輪を広げていければと思いました。

7. 講演内容の理解について

講演内容の理解について	回答数
よく理解できた	35
どちらかといえば理解できた	17
どちらかといえば理解できなかった	2
ほとんど理解できなかった	0
合計	54



8. 今後の高次脳機能障がい研修会に対する要望について

- ・高次脳機能障害のリハビリの内容について教えてください。職業リハではどのような内容のリハを行いますか。
- ・（職場復帰や運転再開支援に向けた）高次脳機能評価の実際
- ・オンラインでの研修のため参加しやすかったです。ありがとうございました。
- ・家族支援（家族の理解を得るための医療側の関わり）について
- ・急性期病院での高次脳機能障害患者さんへの具体的なアプローチの方法について
- ・岩手県の制度や資源の中で生活期の支援をどのように行っていけばよいのか情報が知りたいです。
- ・高次脳機能障害に対しての東北大学高次脳機能障害科鈴木匡子教授からの講演を聞きたい
- ・また是非受講したいと思います。ありがとうございました。
- ・県外でしたが、参加させていただきありがとうございました。
- ・一ノ関地域では、退院後のSTリハビリは不足している状況です。退院後、在宅に帰ってからの支援の継続をどこで誰がどのように支援していくのか社会資源など知りたいです。
- ・両立のための支援について、社会資源を巻き込み、枠組みをどのように作り上げていかれたのか各県の取り組みを聞きたいと思いました。もっと周知され必要性を理解していただけるような取り組みが拠点には求められると思うので、今後力を入れていきたい。皆さんの活動が知りたいです。

高次脳機能障がい者支援研修会（地域の支援者対象）開催要綱

1 目的

「見えない障害」といわれる高次脳機能障がい者の支援に関わっている、あるいは関わる可能性のある地域の支援者を対象として開催します。本事業は岩手県の委託事業として実施するものです。

2 主催

いわてリハビリテーションセンター

3 期日

※ZOOMを使用したオンラインでの配信になります。1回目と2回目は同じ内容です。

配信1回目：令和5年3月16日（木）13：30～14：50

配信2回目：令和5年3月18日（土）13：30～14：50

4 対象

県内の病院、福祉施設、相談支援事業所、市町村職員等

5 内容

講演①：高次脳機能障害の方の「生活と支援の実際」 30分

ナレーション講師：名古屋市総合リハビリテーションセンター 自立支援部

就労支援課長 稲葉 健太郎 氏

講演②：高次脳機能障害の方の「復職・就労支援」 30分

ナレーション講師：札幌国際大学 教授 青木 美和子 氏

「厚生労働科学研究：高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキストの開発のための研究班」作成の講義動画を使用

6 参加経費

研修参加費 無料

7 申込方法等

オンライン（ZOOM）での配信になります。

参加希望の方は別紙「申し込み方法」を確認のうえ、メールで申し込みをお願いします。

8 問い合わせ先

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当〈担当：大江・上田〉

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243 TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

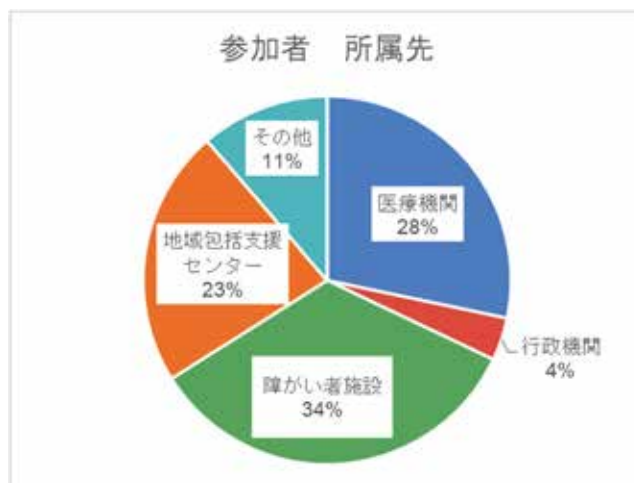
高次脳機能障がい者支援研修会（地域の支援者対象）アンケート結果

開催日：令和5年3月16日（木）、18日（土）

回答数：53

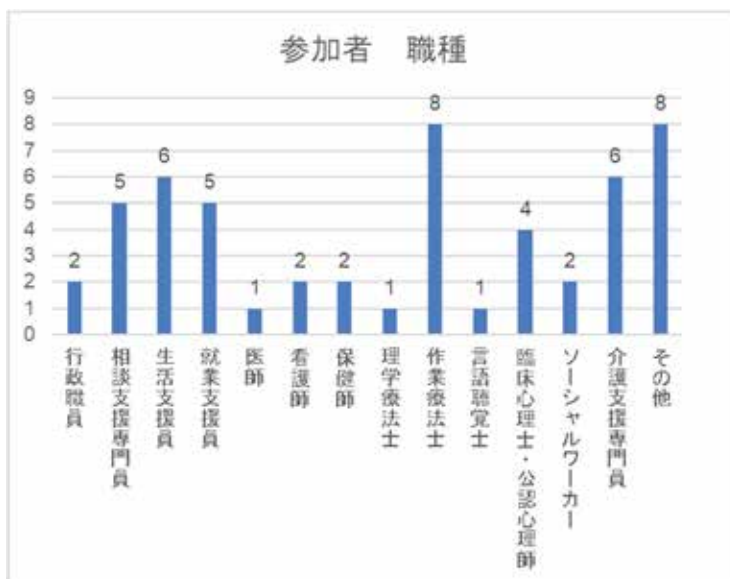
1. 参加者の所属先

所属先	回答数
医療機関	15
行政機関	2
教育機関	0
障がい者施設	18
地域包括支援センター	12
その他	6
合計	53



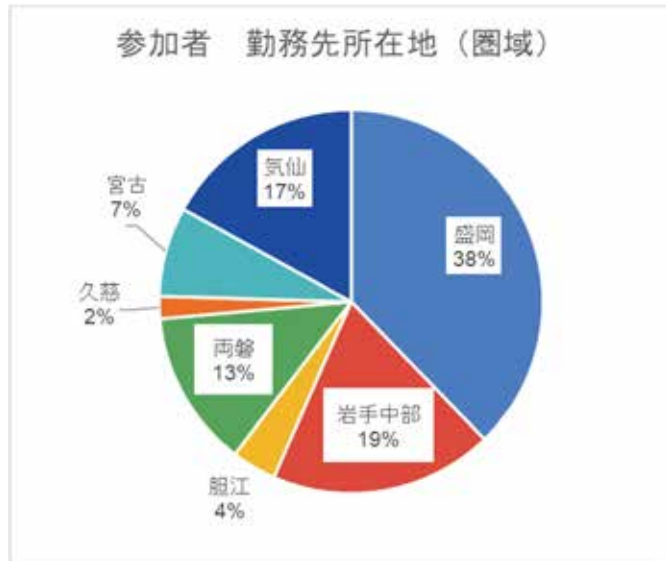
2. 参加者の職種

職種	回答数
行政職員	2
相談支援専門員	5
生活支援員	6
就業支援員	5
医師	1
看護師	2
保健師	2
理学療法士	1
作業療法士	8
言語聴覚士	1
臨床心理士・公認心理師	4
ソーシャルワーカー	2
介護支援専門員	6
その他	8
合計	53



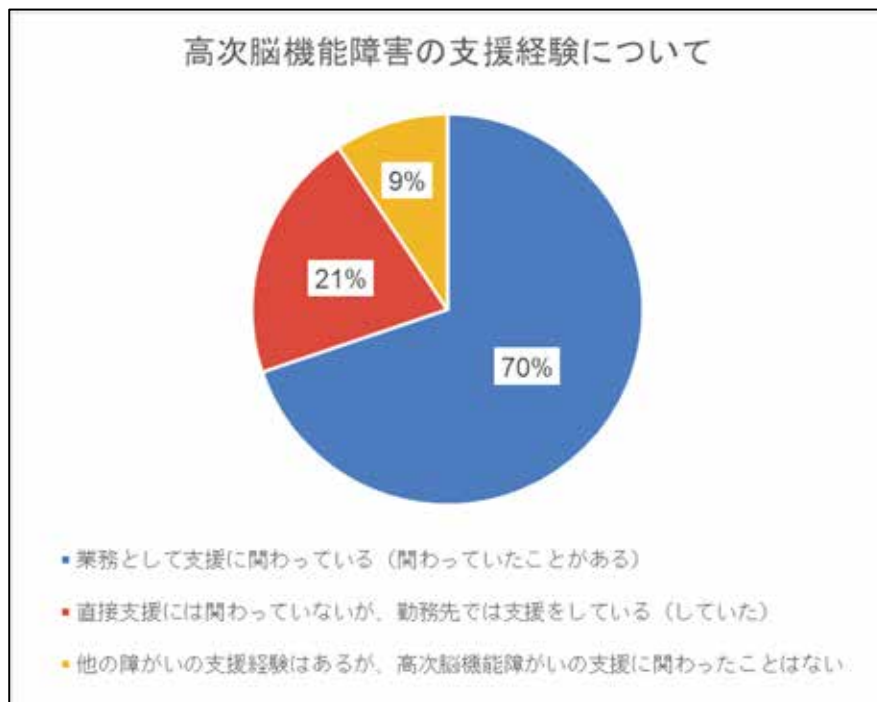
3. 参加者の勤務先所在地

圏域	回答数
盛岡	20
岩手中部	10
胆江	2
両磐	7
久慈	1
宮古	4
気仙	9
合計	53



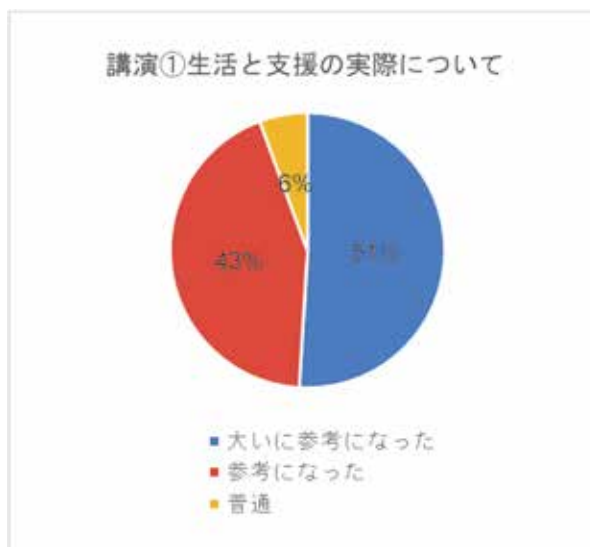
4. 高次脳機能障がいの支援経験について

支援経験について	回答数
業務として支援に関わっている（関わっていたことがある）	37
直接支援には関わっていないが、勤務先では支援をしている（していた）	11
他の障がいの支援経験はあるが、高次脳機能障がいの支援に関わったことはない	5
合計	53



5. 講演①「生活と支援の実際」について

講演①について	回答数
大いに参考になった	27
参考になった	23
普通	3
参考にならなかった	0
合計	53



6. 講演①について、もう少し詳しく聞きたかったこと

- ・ B型事業所を実際に利用した方の事例などがあれば知りたかったです。
- ・ 就労という観点からの支援が主な内容だったように感じましたが、普通の自宅での「生活」という観点からの支援の実際について、もっと聞ければ尚良かったと思いました。
- ・ 十分でした。
- ・ 実際に関わっている事業所の話しがもっと聞きたかった（関わっている時に思うことを文章で
- ・ 感情のコントロール対応についての
- ・ 具体的な支援について
- ・ 人間関係を大切に手段の一つとして、仲間との関係づくりがありました。支援者がつくるとお話しただきましたが、実際どのようにつくっているのか知りたいです。
- ・ 高次脳機能障害について、もっと詳しく聞きたかったです。

7. 講演②「復職・就労支援」について

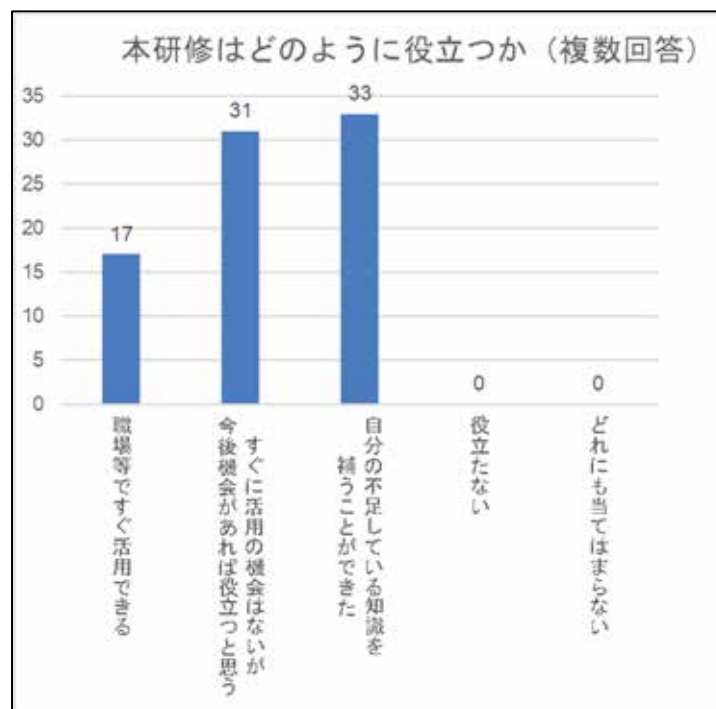
講演②について	回答数
大いに参考になった	25
参考になった	23
普通	5
参考にならなかった	0
合計	53



8. 講演②について、もう少し詳しく聞きたかったところ

- ・ 定着支援について
- ・ メモ取り訓練の詳細（どのようにメモを取り、どのような助言をしているか）
- ・ 高次機能障がいの方の就労定着率について
- ・ 全体的にすこしテンポが速かったので時間を少し長めにとってゆっくりやってほしかった。
- ・ ジョブコーチの支援事例
- ・ 職業相談で本人と周囲の違いを明確化させる時や訓練の振り返り時に、本人への声かけや配慮はどのようにしているのか知りたいです。自分が思っていることと、周囲が思っていることの違いを受容している人の方が少ない気がします。現状を知って、苛立ったり、落ち込んだりを避けるために、事前になにかお伝えするなどしているのでしょうか？
- ・ 高次脳機能障がいに特化した事例があれば良かった。
- ・ 具体例やエピソードをもう少し知りたかった。例えば手順書の細かさの段階についてのお話があったが、どの程度細分化すると理解が異なるのか、など。

9. 本研修はどのように役立ちましたか



10. 高次脳機能障害の方の支援に関する課題、今後必要な取り組みについてご意見等がありましたら入力してください。

- ・高次脳機能障がいのある方の認知リハビリテーションの実際
- ・作業療法士がもっと就労支援に関われるようになりたいと思いました。がんばります。
- ・当事者の意欲向上の促し方
- ・包括として関わるケースは少ないので、より具体的な事例や支援方法などの研修を今後もお願いいたします。
- ・利用者さんの目線での支援を心がけているつもりでもできないこともあったな、と再認識できました。
- ・就労支援をせず復職した事例があり、職場からの理解が得られずうつ病となった方がいました。障がい者雇用の話も出たのですが、自立して生活するには賃金が安いで我慢していたようです。賃金面が課題と感じました。
- ・もっと学べる機会があれば良いかと思います
- ・札幌での支援での課題と共通するところや、違いもありとても参考になりました。
- ・今回は、比較的大きな地域のお話でした。岩手県での取り組みはどうなのかを考えたときに、地域よっての違いよりも、まだ福祉サービス事業所にさえ高次脳機能障がい浸透していないような気がしています。岩手独自の取り組みを多職種で検討し、誰もが解る形で、支援体制が構築されていくと良いのかなあと感じました。
- ・高次脳機能障害と診断を受けた方だけではなく、疑いがある方のポイント等がありましたら、教えていただきたいです。
- ・次回はグループホームにおいての課題、支援状況についてお聞きしたいです。

11. その他お気づきのことやご意見、ご感想等がありましたら入力してください。

- ・本日はありがとうございました。
- ・支援の流れや具体的な課題に対する対策がわかりやすかったです。
- ・高次脳機能障がいの方の心理状況について。担当しているケースでは非常に無気力、意欲低下等がみられるも、理由を全て高次脳機能障がいの症状として訴えている状況。純粋に症状なのか、精神科的治療が必要な状況なのか判断が付きにくい。心理状況の変化等、学ぶことができれば参加していきたい。
- ・またお願いいたします。
- ・自己理解を深めること、助言を聞くことができるか等、高次脳機能障がいの方に限らず他の障がいの利用者さんや職員にとっても大切なことだと感じました。支援の仕方も改めて勉強になりました。ありがとうございました。
- ・支援をするうえで気を付けることがとてもよくわかりました。ありがとうございます。
- ・わかりやすい資料内容でとても参考になりました。
- ・講演内容も分かり易くて良かったです。時間も短時間で仕事に受講するには丁度良かったです。このような貴重な機会を企画していただき、ありがとうございます。今度は、同じテーマでももう少し小規模な地域の取り組みを伺いたいです。
- ・今の仕事ではまだ関わっていないが、心掛けることや工夫できることを学ぶことができ良かった。
- ・高次機能障外の方の症状を詳しく知ることが出来て良かったです。できる能力を生かすことの大切さ

を改めてわかりました。

- ・移行支援の実際についてイメージしやすい内容(事業所の種類、必要なアセスメント、周囲と係る能力の必要性等)で、とても勉強になりました。
- ・就労のための話だったが、「高次機能障害者への支援を通して目指すこと」でモチベーションの維持のチェック項目は、細かいチェック内容は違っても、どの障害者についても必要なことに感じました。個々に対応して、個々が居心地よく、全員が元気に楽しく通所できる環境づくりができたらいいなと思いました。
- ・自己理解の重要性についても、わかっているつもりでしたが、立ち止まって考えなおす、いい機会となりました。ありがとうございました。"
- ・高次脳機能障害の患者様は少なくないため、今後関わる上で参考になりました。患者様本人はもちろん、家族様の意向も聞きながら、本人様が本人様らしく周囲の方と上手に関わっていけるように入院中も退院後も支援して行ければいいなあと感じました。貴重な講演をありがとうございました。始め声が小さく聞き取りにくかった。WEBであったため、淡々と進みペースが速く感じた。

高次脳機能障がい当事者・家族のための ZOOM の使い方講座 開催要綱

1 目的

コロナ禍によりオンライン対応が増えている現在、当事者・家族交流会もオンラインで開催されることが増えています。この研修は、高次脳機能障がいのある方及びその家族を対象とし、オンライン会議等でよく使用される ZOOM ミーティングの使い方を学ぶものです。本事業は岩手県の委託事業として実施するものです。

2 主催

いわてリハビリテーションセンター

3 期日

令和 4 年 10 月 16 日（日）13：00～16：00

4 場所

いわてリハビリテーションセンター 研修室（岩手郡雫石町七ツ森 16-243）

5 対象・定員

高次脳機能障がいのある方、そのご家族

6 日程及び内容

受付開始 12：30～

講 義 13：00～13：30 （講師：リードコナン）

演 習 13：30～14：30 実際にデバイス进行操作します

質疑応答 14：30～

※適宜休憩をはさみます。進行状況によって時間配分が変更になる可能性があります。

7 参加費

無料

8 申込方法等

電話、FAX、郵送にてお申し込みください。

9 参加にあたっての注意事項

当日はパソコン、スマートフォン、タブレット等、ZOOM を使用することができる 自身のデバイスをご持参ください。

当事者の方は家族の方と一緒にご参加ください。

原則、講座修了後に当センターもしくはいわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ主催のオンライン交流会への参加をお願いします。

10 問い合わせ先

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当〈担当：大江・上田〉

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243 TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

高次脳機能障がい当事者・家族の方のための

zoom の使い方講座

どうやって
使うの？

使うには
何が必要？

使い
こなせる？

ZOOMを使ったオンライン会議や
イベントの開催が増えています



使い方の基本から活用方法までプロがお教えします！

日時：令和4年10月16日（日）

13:00～16:00

参加費
無料

場所：いわてリハビリテーションセンター
研修室

定員：30名

申込方法については裏面をご覧ください
※申込期限：10月11日（火）

当日はパソコン、スマートフォン、タブレット等、ZOOMを使用することができる
自身のデバイスをご持参ください

◆お問い合わせ◆

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障がい担当

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森16-243

TEL 019-692-5800 FAX 019-692-5807

E-mail koujinou-shien-reha@irc.or.jp

会場には消毒液を配置し、席の間隔を十分に空ける等の感染対策を行います。
当日のマスク着用、検温・体調の確認等へのご協力をお願いします。

タイムスケジュール

令和4年10月16日 13:00～16:00（受付開始 12:30～）

- 13:00～13:30 講義
- 13:30～14:30 演習（実際にデバイス进行操作します）
- 14:45～ 質疑応答

当日はパソコン、スマートフォン、タブレット等、ZOOMを使用することができる
自身のデバイスをご持参ください。

※ 適宜休憩を設ける他、進行状況によって時間配分が変更になる可能性があります。

参加にあたっての注意事項

- 当事者の方は家族の方と一緒にご参加ください。
- 原則、講座修了後に当センターもしくはいわて高次脳機能障害友の会
イーハトーヴ主催のオンライン交流会への参加をお願いします。
- ZOOMはアプリケーションの性質上多くのデータ通信を必要とするため、研修中は
当センターのインターネット回線を使用します。研修終了後、ご自宅や外出先でZOOM
を使用する際には、インターネット環境やご自身のスマートフォンの料金プランをご確認
の上ご使用ください。

----- ※切り取らずにFAXしてください -----

参加申込書

令和4年 月 日

いわてリハビリテーションセンター

高次脳機能障がい者支援研修会担当（上田・大江） 宛

（FAX692-5807）

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業

高次脳機能障害当事者・家族の方のためのZOOMの使い方講座

氏名	連絡先	備考

高次脳機能障がい当事者のためのオンラインサロン 開催要綱

1 目的

先日開催した ZOOM の使い方講座の実践のため、また当事者同士の交流のため、ZOOM を使用したオンラインサロンを開催するものです。

2 主催

いわてリハビリテーションセンター

3 期日

令和 4 年 11 月 13 日（日）10：30～11：30

4 開催方法

ZOOM を使用したオンライン交流会

主催者はいわてリハビリテーションセンター会議室から参加します。

5 参加費

無料

6 申込方法等

使用するデバイス（パソコンやスマートフォン等）からメールでお申し込みください。
koujinou-shien-reha@irc.or.jp まで お名前を明記の上、メールを送信してください。

7 事前練習について

ZOOM の接続に不安のある方は事前に練習することができます。

希望の日時を電話またはメールでお知らせください。

練習は平日 9：00～17：00 までの対応となりますが、必ずしもご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。

8 問い合わせ先

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当〈担当：大江・上田〉

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243 TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

高次脳機能障がい当事者のためのオンラインサロン 開催要綱

1 目的

当事者同士の交流のため、ZOOMを使用したオンラインサロンを開催するものです。

2 主催

いわてリハビリテーションセンター

3 期日

令和5年3月12日（日）10：30～11：30

4 開催方法

ZOOMを使用したオンライン交流会

主催者はいわてリハビリテーションセンターから参加します。

5 参加費

無料

6 申込方法等

使用するデバイス（パソコンやスマートフォン等）からメールでお申し込みください。
koujinou-shien-reha@irc.or.jp までお名前を明記の上、メールを送信してください。

7 事前練習について

ZOOMの接続に不安のある方は事前に練習することができます。

希望の日時を電話またはメールでお知らせください。

練習は平日9：00～17：00までの対応となりますが、必ずしもご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。

8 問い合わせ先

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当〈担当：大江・上田〉

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243 TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

目次

1. 動画：自宅で作れる脳と体を鍛えるプログラム
2. ZOOM 使い方講座の報告
(当事者・家族向け)
3. 編集後記

当センターにて、「動画：自宅で作れる脳と体を鍛えるプログラム」を作成致しました。今回はその内容や閲覧方法と、先日開催された ZOOM 使い方講座について報告致します。

1. 動画：自宅で作れる脳と体を鍛えるプログラム

昨年、当センターでは、ご自宅でも何かリハビリをしたい、運転再開や仕事復帰に向けもっと力を伸ばしたいという方々のために、「脳と身体を鍛えるプログラム集」を作成致しました。

今回は、よりご自宅で自主トレーニングに取り組みやすくなるよう、プログラム集の中の「カード探し」、「数字探し」の解説動画と 1 人でも出来る高次脳機能障害カルタの動画を作成致しました。「カード探し」、「数字探し」は初級・中級・上級の 3 種類、「高次脳機能障害カルタ」は 3 種類の読み上げ動画が閲覧可能です。「脳と身体を鍛えるプログラム集」と併用しつつ、ぜひご自宅でのリハビリに取り組んでみて下さい。



閲覧方法：下記 QR コードをご参照ください。



カード探し初級



数字探し初級



カルタ読み上げ

その他の動画は、いわてリハビリテーションセンターの YouTube チャンネルから視聴することができます。

2. ZOOM 使い方講座（当事者・家族向け）

10月16日（日曜日）いわてリハビリテーションセンター研修室にて、ZOOMの使い方講座を開催しました。

コロナ禍で当事者・家族会や支援者との面談等もオンラインで行われることが増えており、当事者・家族の皆さんの中にはZOOMを使いたくてもどうしたらいいかわからない方もいるのでは？

そこで今回はZOOMの基本的な使い方について、株式会社リードコナンの社員の方にご講義いただきました。

当日は高次脳機能障害のある当事者の方、家族の方19名にご参加いただきました！

アプリのダウンロードに始まり、ミーティングルームへの入り方やミュート（自分の音声を聞こえないようにする）の仕方、リアクション（拍手や絵文字で反応を伝える）の方法など、参加者自身のスマホやパソコンを使って実践しました。

「これどうなってるの？」「画面が固まったよ！」「そんなボタンないよ」など皆さん四苦八苦する様子も見られましたが、参加者同士で教え合う姿も

見られ、最後には無事みんながミーティングに参加することができました。

今後はぜひ当事者・家族会などで実践していただきたいと思います。



3. 編集後記

今年度のメールニュースの配信がスタートしました。今年度は、脳とからだを鍛えるプログラム集の動画配信や、センターで主催予定のオンライン研修会の概要、困ったときの相談先について掲載予定です。

新型コロナウイルスにより、自宅で過ごす時間が多くなりがちです。ぜひ今回ご紹介した動画等も使用し、おうち時間を有効活用していきましょう。

ご意見ご感想はこちらまで アドレス koujinou-shien-reha@irc.or.jp

メールニュース担当（吉田賢、吉田雄、菅原、村田、上田、佐々木、大江）

目次

1. いわてリハビリテーションセンターでお受けしている相談について

2. オンラインサロンについて

3. 編集後記

1. いわてリハビリテーションセンターでお受けしている相談について

当センターは、岩手県の高次脳機能障がいの支援拠点機関として、当事者・家族・支援者の方からの相談をお受けしています。今回は、当センターで受けている主な相談内容をご紹介します。

① 診断・評価について

外来にて、高次脳機能障がいの診断・評価を行います。

事前に相談員が症状等の聞き取りを行い、担当医と受入れの相談をしています。[外来は紹介予約制*です。](#)



② 障害者手帳・障害年金の申請について

診断書の作成、申請手順の説明、書類作成のサポートを行います。

③ 福祉サービスの利用について

介護保険や障害福祉等のサービスについて情報提供を行います。関係機関と連携し、必要なサービスが利用できるようサポートを行います。

④ 仕事や学校等の社会生活について

当事者、家族の希望をうかがい、必要時、職場や学校と連絡をとりながら、その方に適した支援について検討します。



⑤ 運転評価について ※運転再開を保証するものではありません

安全に運転することが可能か外来にて評価を行います。運転シミュレーターや机上の検査を行い、総合的に判断します。[外来は紹介予約制*です。](#)

⑥ 障害への対応について

当事者の方に対しては、ご自身の症状に対する対処法を、家族や支援者の方には、どのように当事者へ対応すべきか、お話をうかがいながら、医師やリハビリ専門職、支援コーディネーターがアドバイスをを行います。

今回ご紹介した内容の他にも、高次脳機能障がいに関する様々なご相談を受けています。すぐには解決できないことや、当センターだけでは解決できないこともあります。ご本人、ご家族、関係機関の皆様と協力しながらお手伝いをしたいと考えています。ぜひ一度ご相談ください。

※紹介予約制について

いわてリハビリテーションセンターの受診に際しては、紹介状が必要です。

まずはかかりつけの先生にご相談ください。

外来は毎日行っておらず、必ず受診予約が必要です。ご不明点はお問い合わせください。

☆連絡先☆

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当
〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森 16-243

TEL 019-692-5800

FAX 019-692-5807

MAIL koujinou-shien-reha@irc.or.jp

2. オンラインサロンについて

11月13日（日）、10月に開催したZOOMの使い方講座を受講された外来患者さんを対象に、オンラインサロンを開催しました。コロナ禍により、毎年行っていた交流会が開催できなくなり、当事者同士の交流の場がなくなってしまったことから、今回初めての試みでした。

今回は5名の方にご参加いただきました！初めてのオンラインサロンで、主催の私たちもドキドキ……。うまく進行できるだろうか、皆さんスムーズに接続できるだろうか。そんな心配をよそに、全員が定刻にそろい、予定通りの進行ができました。ご協力感謝いたします！

交流会では、秋の味覚、出身地、はまっているもの、この3つのテーマでお話をしました。

参加された方からは「同じ障害の人と話せてよかった」「ぜひまた集まりたい」と感想をいただきました。今後も定期的な開催を目指しています。



3. 編集後記

今回は当センターでお受けしている主な相談内容について、ご紹介しました。こんなこと聞いていいのかな？どこに聞いたらいいのかな？と迷うこともあると思います。そんな時もまずは一度ご相談ください。

まだまだ寒い時期が続きますね。温かいおいしいものを食べて乗り切りましょう。

ご意見ご感想はこちらまで アドレス koujinou-shien-reha@irc.or.jp

メールニュース担当（吉田賢、吉田雄、菅原、村田、上田、佐々木、大江）



目次

1. 動画：【第 2 弾】自宅で作る脳と体を鍛えるプログラム
2. 研修会報告
3. 編集後記

当センターにて、「動画：脳と身体を鍛える自主トレプログラム」の第 2 弾を作成いたしました。今回はその内容や閲覧方法について報告致します。

1. 動画：脳と身体を鍛える自主プログラム

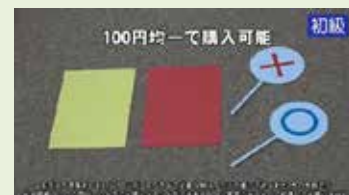
当センターでは「脳と身体を鍛える自主トレプログラム」の動画を作成し、YouTube でご紹介しています。

今回は、その第 2 弾のご紹介です。

ご自宅での自主トレーニングに、より取り組みやすくなるよう、令和 2 年度に作成したプログラムのうち「デコボール」、「旗あげゲーム」の解説動画を作成しました。「デコボール」、「旗あげゲーム」は、それぞれ初級・中級・上級の 3 種類の動画が閲覧可能です。

冊子版「脳と身体を鍛える自主トレプログラム第 2 弾」も作成中ですので、こちらを併用し、ぜひご自宅でのリハビリに組み込んでみてください。冊子版が完成した際は、メールニュースにてお知らせいたします。

記録をつけると、日々の自分の取り組みの成果が分かりやすくなります。継続は力なりです。一緒に頑張りましょう。



閲覧方法：下記 QR コードをご参照ください。



デコボール初級



旗あげゲーム初級

その他の動画は、いわてリハビリテーションセンターの YouTube チャンネルから視聴することができます。チャンネル登録もよろしくお願い致します。

2. 研修会報告

3月9日・11日、医師及びコメディカル対象研修を開催致しました。今回は広島県にある中国労災病院 治療就労両立支援センター 所長 豊田章宏先生に「脳卒中後の治療と就労の両立支援」をテーマにご講義いただきました。2日間合計で70のアクセスがあり、たくさんの方にご視聴いただきました。ありがとうございます。

生産労働人口が減少している今、出産・育児、介護、治療、この3つとの両立は大きなテーマとなっているとお話がありました。

講義では両立支援コーディネーターについて取り上げられ、病気や障害を抱えて働く上で、コーディネーターがともに考え、支援をしてくれるのはとても心強いことだなと感じました。

アンケートにも「両立支援コーディネーターのことを知るきっかけになった」という言葉が多く聞かれ、皆さんの印象にも残ったことと思います。豊田先生は岩手医科大学のご出身で岩手に縁のある先生ですので、またいつか岩手にお招きしご講演いただきたいと考えています。

翌週3月16日・18日には、地域支援者向け研修を開催致しました。こちらは、「厚生労働科学研究：高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキスト開発のための研究班」が作成した講義動画を使用し、高次脳機能障害の方の生活と支援の実際、復職・就労支援について取り上げました。当日は、医療・福祉・行政関係者の多数の方にご視聴いただきました。他にも研究で作成したテキスト動画を頂いているので、順次研修にて取り上げられればと考えております。

3. 編集後記

今年度は、脳とからだを鍛えるプログラム集の動画配信や、センター主催の研修会、困ったときの相談先について皆さんにお伝えしました。これからも、皆さんにとって役に立つ情報を発信していきたいと思います。「こんなことを取り上げてほしい」というものがあれば、ぜひ教えてください。

桜が咲くまであと少し。真っ白な雪景色から、彩り豊かな景色になる季節が待ち遠しいですね。

ご意見ご感想はこちらまで アドレス koujinou-shien-reha@irc.or.jp
メールニュース担当(吉田賢、吉田雄、菅原、村田、上田、佐々木、大江)

高次脳機能障がいカルタ 無料配布のお知らせ

当センターでは、岩手県高次脳機能障がい支援普及事業の一環として、当事者・家族の思いを50音にのせた「高次脳機能障がいカルタ」を作成致しました。

読み札作成にはいわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴにご協力いただき、当事者・家族の皆さんの共感が得られるような内容になっています。

この度高次脳機能障がいの支援普及のため、ご希望の方に数量限定で無料配布を行うこととしました。リハビリやレクリエーションの他、当事者・家族会、障がいについての学習等にご活用いただき、この障がいについての理解を深めていただけると幸いです。



料 金： 無 料

送 料： 申込者の負担
(着払いとなります)

《お申し込み方法》

①ホームページ

いわてリハビリテーションセンター
高次脳機能障がい者支援普及事業のホームページ
(<http://www.irc.or.jp/koujinoukinoushougai/index.html>)
にアクセスし、申し込みフォームに必要事項をご記入の上お申し込みください。



②FAXまたは郵送

裏面の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。

※無断複製、転売の禁止、送料負担についての同意がない場合はお申込みいただけません。

【お問い合わせ】

〒020-0503

岩手県岩手郡雫石町七ツ森16番地243

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障がい担当

TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

MAIL：koujinou-shien-reha@irc.or.jp



いわてリハビリテーションセンター 行き

FAX 019-692-5807

高次脳機能障がいカルタ 申込用紙

- ・ 下記項目を全てご記入ください。
- ・ 注意事項をご確認の上、チェックを入れてください。
チェックがない場合はお申し込みを受け付けできません。

個人 団体

所属（団体の方のみ）	
部署（団体の方のみ）	
フリガナ	
氏名	
送付先住所 ※岩手県外の方は都道府県 からご記入ください。	〒 ー
電話番号	
使用目的 ※当てはまる項目全てに チェックを入れてください	<input type="checkbox"/> リハビリテーション <input type="checkbox"/> レクリエーション <input type="checkbox"/> 学習用 <input type="checkbox"/> 普及活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）

【注意事項】

- ・ 申込み数が上限に達した場合は、キャンセルと致します。
- ・ 著作権はいわてリハビリテーションセンターに寄与します。
- ・ 無断複製、転売は禁止と致します。
- ・ 送料は着払いでお申込いただいた方のご負担となります。

全ての注意事項に同意しました。

100円グッズを使って家庭で出来る!

脳と身体を鍛える
自主トレ
プログラム

第2弾



公益財団法人
いわてリハビリテーションセンター
高次脳機能障がい者支援担当

はじめに

このたび令和2年度に作成した「100円グッズを使って家庭で出来る！ 脳と身体を鍛える自主トレプログラム」の第2弾を作成しました。

第1弾とプログラムの種類は同じですが、それぞれ初級・中級・上級とレベル分けをしました。まずは初級からチャレンジし、自分のペースで徐々にレベルアップしていきましょう。

この自主トレプログラムの中で使用している道具は、主に100円ショップで購入できるものですが、ご家庭にあるもので代用しても構いません。ぜひ自分なりの方法で、トレーニングに取り組んでみてください。

日々の努力が力になるのじゃ！！



使い方

1 トレーニングのやり方を確認

- ・ 目標、必要物品、目的、方法を確認
- ・ 動画でもやり方をご紹介しています
各ページのQRコードまたはいわてリハビリテーションセンターのYouTubeチャンネルから確認できます

2 日々の記録

- ・ 記録用紙に毎回記録を残す
- ・ 同じレベル、同じルールごとに記録を残しましょう

3 記録の振り返り

- ・ 記録の変化を確認する
- ・ 記録が伸びない時は、やり方や記録の取り方に問題があるかもしれません。病院・施設のスタッフや家族など、他の人に相談してみましょう。



昨日の自分に挑戦しよう★

1. カード探し

指定されたカードを探すトレーニングです。
初級・中級・上級と徐々に難易度が上がります。
まずは初級から挑戦してみましょう。

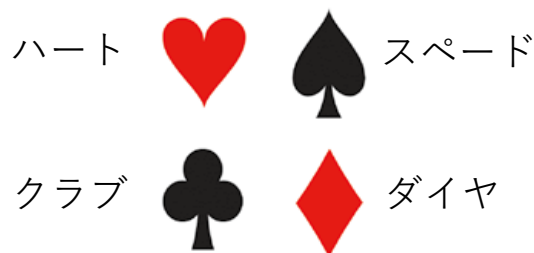
●目的

注意力の向上（複数の中から必要なカードを選ぶ）
記憶力の向上（読み上げられたカードを覚える）

●必要物品

トランプ

◎記号の呼び方



◎札の呼び方



① 初級

●目標

Step 1

正しい向きにカードを並べ、間違えずに2枚のカードを取る

Step 2

バラバラの向きにカードを並べ、間違えずに2枚のカードを取る

●方法

- ① トランプを並べる。
- ② 取る札の種類を2つ読み上げてもらう。

☆指示の方法

記号と、数字または絵札を組み合わせて、カードを指定する。指示が終わったら「はい」と言う。
(例：ハートの4、クラブのキング)



記号

：ハート、ダイヤ、クラブ、スペード

数字または絵札

：1～10、ジャック、クイーン、キング

- ③ 読む人が「はい」と言ってから、できるだけ早く読み上げられた条件に合う2枚の札をとる。

動画を見ながら一緒に
トレーニングできます

動画 (YouTube)



例

日付	取った枚数	感想など
1/1	枚	焦って間違えた
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	

日付	取った枚数	感想など
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	

② 中級

中級では取る札の枚数が増えます。
指示をしっかりと聞いて、条件にあった札を選びましょう。

●目標

間違えずに指定された4枚のカードを取る

●方法





- ① トランプを並べる。
- ② 取る札の条件を2つ読み上げてもらう。

☆指示の方法

色（赤か黒）と数字または絵札を組み合わせる2つの条件を指定してください。

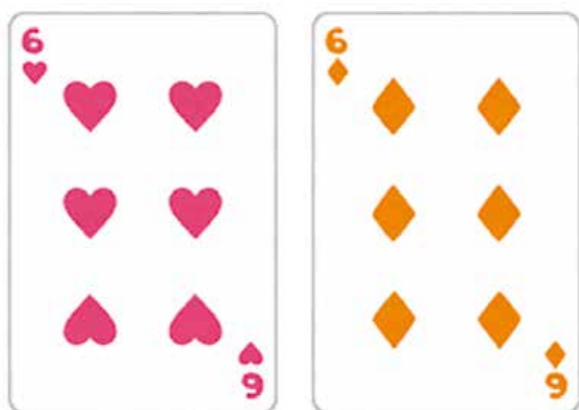
指示の例：赤の6、黒のエース

③ 読む人が「はい」と言ってから、できるだけ早く読み上げられた条件に合う4枚の札をとる。

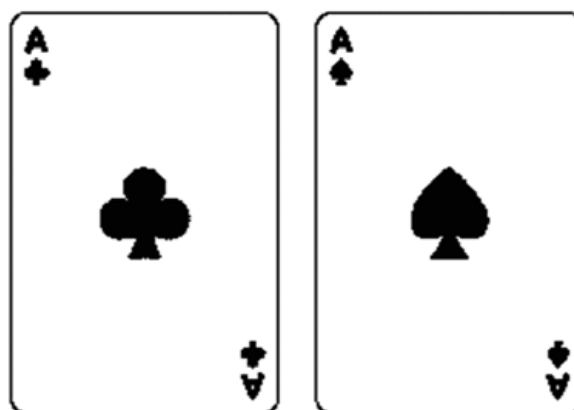
※赤・・・ハートとダイヤ		
黒・・・スペードとクラブ		

「赤の6」「黒のエース」と言われたら・・・

赤の6
↓
ハートとダイヤの6



黒のエース
↓
クラブとスペードの1



動画を見ながら一緒に
トレーニングできます

動画 (YouTube)



例

日付	取った枚数	感想など
1/1	枚	焦って間違えた
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	

日付	取った枚数	感想など
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	

③ 上級

上級では指示された条件のカードをそのまま取るのではなく、ルールを理解した上で、頭の中で取るべきカードの色や数字を整理する必要があります。

指示をしっかりと聞き、落ち着いて考えてから条件にあった札を選びましょう。

●目標

- ・ルールを理解し、取るべきカードを選ぶことができる
- ・間違えずに4枚のカードを取ることができる

●ルール

- ・指示された条件の
異なる色で2を足したカードを探す

例えば・・・「赤の3」と指示された場合

赤 の 異なる色なので 黒

3 に 2を足すので 5



「黒の5」を探す

※クイーン (Q) の場合はエース (A)、キング (K) の場合は2を探してください

●方法

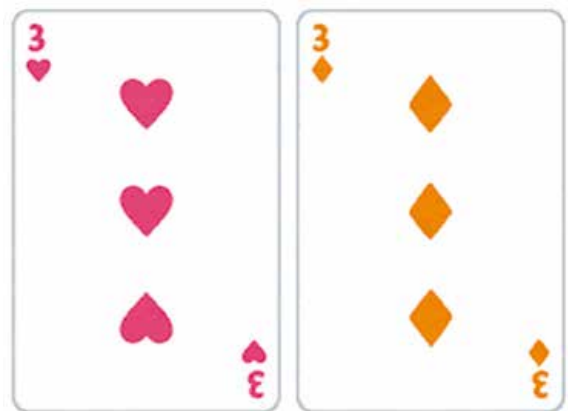
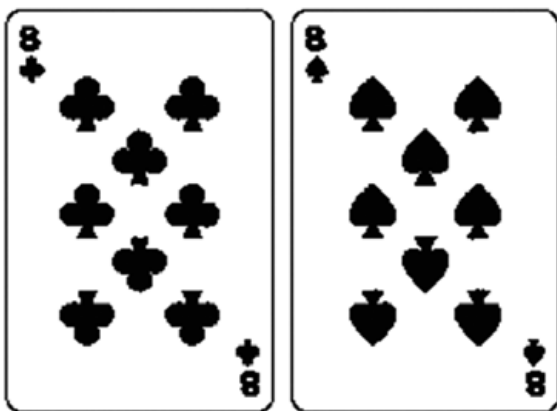
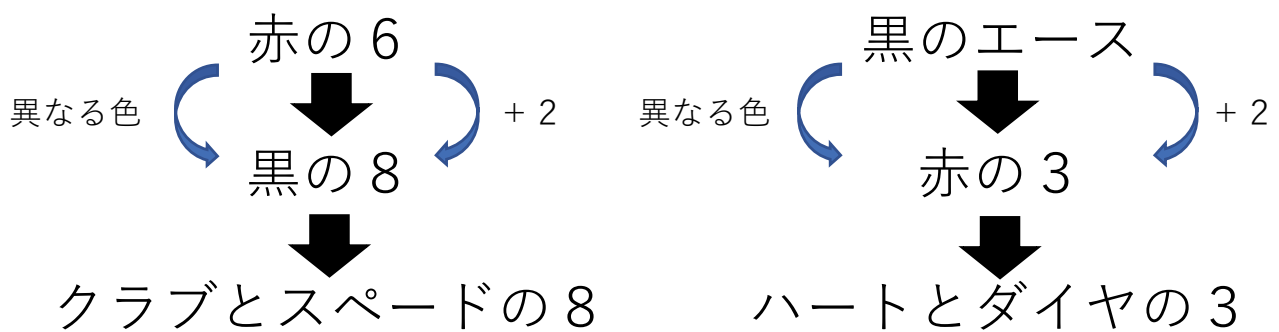
- ① トランプを並べる。
- ② 取る札の条件を2つ読み上げてもらう。

☆指示の方法

色（赤か黒）と数字または絵札を組み合わせる2つの条件を指定してください。

指示の例：赤の6、黒のエース

- ③ 読む人が「はい」と言う前から、異なる色で2を足したカードを、頭の中で考えて4枚の札をとる。



動画を見ながら一緒に
トレーニングできます

動画 (YouTube)



日付	取った枚数	感想など
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	
/	枚	

2. 数字探し

バラバラに配置された数字や文字を順番に探すトレーニングです。

初級・中級・上級と徐々に難易度が上がります。まずは初級から挑戦してみましょう。

●目的

注意機能・遂行機能の向上
(なるべく早く正しいものを見つける力)

●必要物品

- ・大きめのふせん
- ・ペン（太めの方が見やすい）
- ・時間をはかれる物
(ストップウォッチ、スマホのタイマーなど)

あ

2

う

4

お

1

い

3

え

5

① 初級

●目標

- Step 1 間違えずに正確に行う
- Step 2 紙を貼る範囲を広げる
- Step 3 紙に書く数字の数を増やす

●方法

- ①ふせんに1～10まで数字を書く
- ②机や床、壁などにふせんを貼る
数字の順番通りではなく、バラバラに貼る
自分の作業しやすいところに貼る
- ③タイマーを押してスタートする
- ④1から順番に数字を探し、ふせんをはがしていく
- ⑤すべてのふせんをはがし終わったら、タイマーを止める



動画 (YouTube)

例

日付	使ったふせんの枚数	かかった時間	感想など
1/1	数字 10枚	分 3 0 秒	もっと早くできそう
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	

日付	使ったふせんの枚数	かかった時間	感想など
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	

② 中級

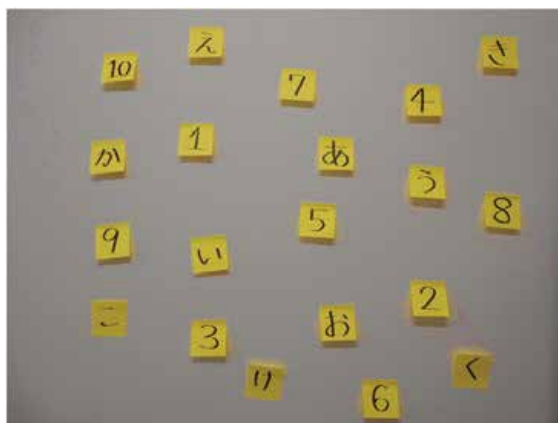
中級では数字に加えて、ひらがなを混ぜます。指示されたものをはがすので、読み上げをお願いするか、動画を見ながら取り組みましょう。

●目標

- Step 1 間違えずに正確に行う
- Step 2 紙を貼る範囲を広げる
- Step 3 紙に書く数字、文字の数を増やす

●方法

- ①ふせんに1～10まで数字と「あ行」と「か行」のひらがなを書く
- ②机や床、壁などにふせんを貼る
数字の順番通りではなく、バラバラに貼る
自分の作業しやすいところに貼る



③タイマーを押してスタートする

④読み上げられた数字やひらがなの書かれたふせんを探し、はがしていく

☆指示の方法

数字とひらがなをランダムに読み上げる

3秒おいてから次の文字を読む

⑤すべてのふせんをはがし終わったら、タイマーを止める

動画を見ながら一緒に
トレーニングできます



動画 (YouTube)

例

日付	使ったふせんの枚数	かかった時間	感想など
1/1	数字10 文字10	分 3 0 秒	もっと早くできそう
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	

日付	使ったふせんの枚数	かかった時間	感想など
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	

③ 上級

上級では、文字数やふせんの貼り方は中級と同じですが、ふせんをはがす際のルールが異なります。決められたルールを頭に入れて、できるだけ早くふせんをはがしましょう。

●目標

- Step 1 間違えずに正確に行う
- Step 2 紙を貼る範囲を広げる
- Step 3 紙に書く数字、文字の数を増やす

●ルール

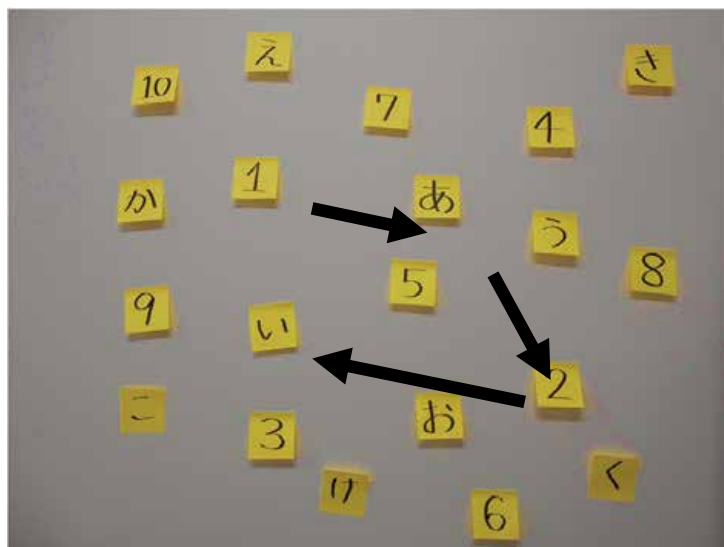
数字とひらがなを交互に、順番通りにはがしていく

1 → あ → 2 → い → 3 → う → 4 → え →
5 → お → 6 → か → 7 → き → 8 → く ...

※指示は出さないなので、自分で考えてはがしていきましょう

●方法

- ①ふせんに1～10まで数字と「あ行」と「か行」のひらがなを書く
- ②机や床、壁などにふせんを貼る
順番通りではなく、バラバラに貼る
自分の作業しやすいところに貼る
- ③タイマーを押してスタートする
- ④数字とひらがなを交互に、順番にはがしていく
- ⑤すべてのふせんをはがし終わったら、タイマーを止める



動画 (YouTube)

例

日付	使ったふせんの枚数	かかった時間	感想など
1/1	数字10 文字10	分 3 0 秒	もっと早くできそう
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	

日付	使ったふせんの枚数	かかった時間	感想など
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	
/		分 秒	

3. デコレーションボール

ルールにそって、玉入れをするトレーニングです。
立って行うことも、座って行うこともできます。

●目的

判断力の向上・空間認知能力の向上

●必要物品

- ・手芸用デコレーションボール（2色以上）
- ・ボールと同じ色のコップ（2色以上）
- ・時間を測れる物（ストップウォッチ、タイマー等）



※代用品

- ・デコレーションボール：カラーボール、お手玉
 - ・コップ：ふちの広いボウル
- 等



目標・方法は、すべてのレベルに共通します。

●目標

Step 1

せまい範囲にボールを広げ、ルールに従って間違えずにボールを入れることができる

Step 2

広い範囲にボールを広げ、ルールに従って間違えずにボールを入れることができる

●方法

- ① コップを横1列に並べる
- ② コップの手前にデコレーションボールを置く
同じ色が固まらないように、バラバラに並べる
- ③ タイマーまたはストップウォッチをスタートさせる
- ④ 1つずつボールを手に取り、設定されたルールに従ってコップに入れる
(ルールはレベルによって異なります)
※正確に、できるだけ早く、すべてのボールをコップに入れましょう
- ⑤ すべてのボールを入れ終わったら、タイマーまたはストップウォッチを止める
- ⑥ かかった時間を記録用紙等に記録する

① 初級

●ルール

- ・ボールを1つずつ手に取り、ボールと同じ色のコップに入れる



動画 (YouTube)



例

日付	かかった時間	間違い数	感想など
1/1	1分50秒	3個	距離感が取りにくい
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	

日付	かかった時間	間違い数	感想など
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	

② 中級

中級では、ボールの入れ方のルールが初級と異なり、少し難しくなります。

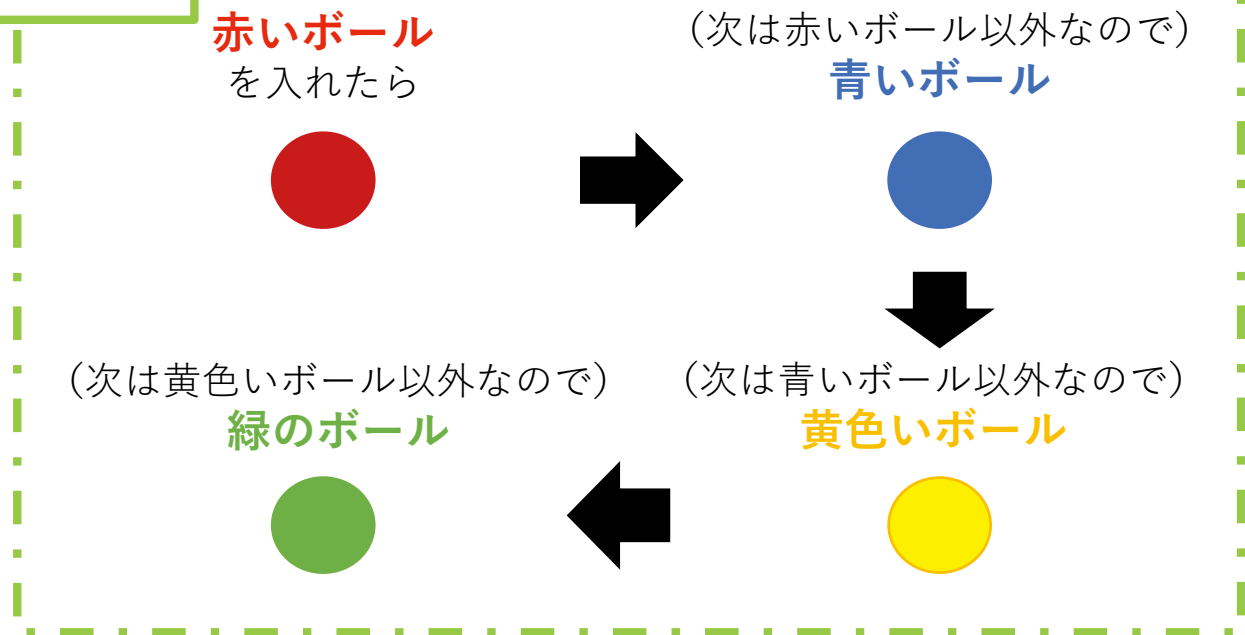
ここでは2つのルールをご紹介します。

〈例1〉

●ルール

- ・ 同じ色のボールを続けて入れない

例えば



●ポイント

- ・ 最後に同じ色のボールばかり残らないよう、バランスよく進めましょう
- ・ 同じ色のボールばかり残る時は、あらかじめ入れる順番の計画を立ててみましょう

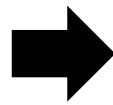
〈例2〉

●ルール

- ・異なる色のコップにボールを入れる

例えば

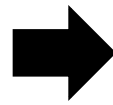
赤いボールは



青いコップに



青いボールは



黄色いコップに



●ポイント

- ・コップがあふれないよう、バランスよく入れていきましょう
- ・ひとつのコップだけがいっぱいになってしまう時は、「赤のボールは青のコップ」「青のボールは黄色のコップ」など、具体的に計画を立ててみましょう

動画 (YouTube)



例

日付	かかった時間	間違い数	感想など
1/1	1分50秒	3個	距離感が取りにくい
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	

日付	かかった時間	間違い数	感想など
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	

③ 上級

中級と同様、ボールの入れ方にルールを設けます。
さらにボールを入れながら他の作業を同時に行います。
ここでは2つのルールをご紹介します。

〈例1〉

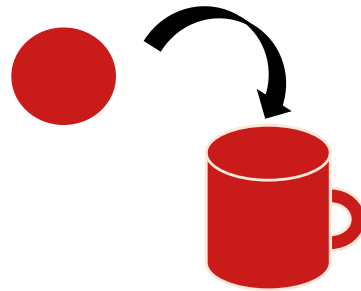
●ルール

- ・ ボールを同じ色のコップに入れる
- ・ ボールの色から連想するものの名前を言う

例えば

赤いボールを
赤いコップに入れながら

「トマト」「太陽」など
赤から連想するものを言う



●ポイント

- ・ すぐに思いつかない時は、別の色のボールに変えてみましょう

〈例 2〉

●ルール

- ・異なる色のコップにボールを入れる
※方法は中級のページをご参照ください
- ・ボールを入れる時に計算をする
(計算のルールを事前に決めておく)

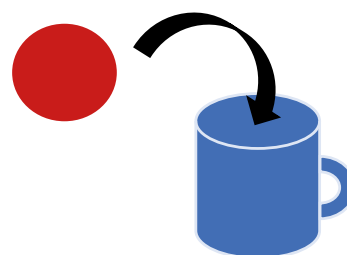
例えば

計算のルール：

1 から順に、ボールを入れるたび 3 を足していく

赤いボールを
青いコップに入れながら

1 + 3 をして「4」と言う



ボールを入れるたびに「7」「10」「13」…と
3 ずつ足した数を言う

●ポイント

- ・暗算で難しい場合は、電卓を使ったり、紙に書いて整理したりして取り組んでみましょう。

動画 (YouTube)



例

日付	かかった時間	間違い数	感想など
1/1	1分 50秒	3個	距離感が取りにくい
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	

日付	かかった時間	間違い数	感想など
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	
/	分 秒	個	

4. 旗あげゲーム

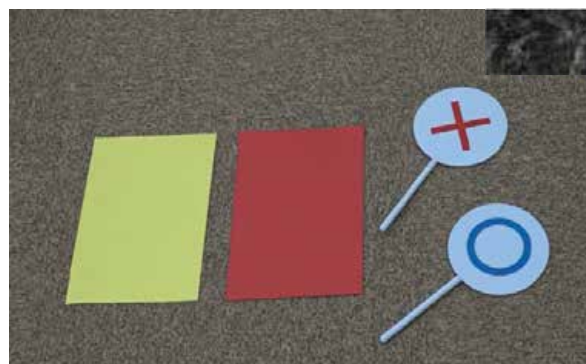
指示に従って旗あげをするトレーニングです。
身体の状態に合わせてやり方の工夫ができます。
初級・中級・上級と徐々に難易度が上がります。
まずは初級から挑戦してみましょう。

●目的

- ・ 指示を正しく聞く力の向上
- ・ 素早く正確に判断して行動できる力の向上

●必要物品

- ・ ○、×の書いてある札
- ・ 色紙（2色）



※代用品

- ・ ○、×の札の代わり：紙に○、×と書いたもの
- ・ 色紙の代わり：ふせん、折り紙

●目標

間違えずに正確に行う

●旗あげの基本ルール

- ・右手に○の札、左手に×の札を持つ
- ・右足の前に黄色い紙、左足の前に赤い紙を置く



- ・ ○と言ったら、右手をあげる
次に○と言ったら、右手を下げる
- ・ ×と言ったら、左手をあげる
次に×と言ったら、左手を下げる
- ・ 黄色と言ったら、右足を出して黄色い紙を踏む
次に黄色と言ったら、紙から足を離す
- ・ 赤と言ったら、左足を出して赤い紙を踏む
次に赤と言ったら、紙から足を離す

●手足の動きに制限がある時

- ・手をあげるのが辛い
➔ 手を前に突き出す



- ・立って行うのが難しい
➔ 座って行う



- ・足を動かさない
➔ 膝やテーブルに紙を置いて、足の代わりに手で紙をタッチする
- ・片方の手足しか動かない
➔ 片足、片手のみで行う
○、×と書いた紙、赤と黄色の色紙をテーブルや床に置いてタッチする



その他、ご自身のやりやすい方法で行って構いません。

① 初級

初級は、基本ルールにのっとしてトレーニングを行います。

●方法

- ① 指示を出す人、指示を受ける人に分かれる。
- ② 指示を出す人は、○、×、黄色、赤の指示を1つずつ、1分間出し続ける。
- ③ 指示を受ける人は、基本ルールにのっとして手に持った札を上げたり、足下の色紙を踏んだり、指示の通りに行動する。
- ④ 正解した数を記録する。
※トレーニングの様子を動画に撮ったり、指示を出す人に数えてもらったりすると記録しやすいでしょう。

★指示を出してくれる人がいない時は、当センター作成の動画をご利用ください。動画の中で指示を出しています。

動画 (YouTube)



日付	正答数	感想など
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	

② 中級

基本的なルールは初級と同じです。
一度に出す指示が増えるので、指示をよく聞いて、
焦らず対応しましょう。

●方法

- ① 指示を出す人、指示を受ける人に分かれる。
- ② 指示を出す人は、○、×、黄色、赤の指示を「○、黄色」のように、一度に2つずつ、1分間出し続ける。

※慣れてきたら、トレーニング時間を2分、3分とのばしてみましょう。

- ③ 指示を受ける人は、基本ルールにのっとって手に持った札を上げたり、足下の色紙を踏んだり、指示の通りに行動する。

- ④ 正解した数を記録する。

※トレーニングの様子を動画に撮ったり、指示を出す人に数えてもらったりすると記録しやすいでしょう。



動画を見ながら一緒に
トレーニングできます



動画 (YouTube)

例

日付	正答数	感想など
1/1	36 個	2分続けるのが辛かった
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	

日付	正答数	感想など
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	

③ 上級

上級では、2つの指示に加えて1つ質問が出されます。なるべく早く答えるようがんばりましょう。

また、質問ではなく、3つ目の指示が出されるパターンもあります。指示をよく聞いて取り組みましょう。

●方法

- ① 指示を出す人、指示を受ける人に分かれる。
- ② 指示を出す人は、○、×、黄色、赤の指示と、質問を織り交ぜながら **1分間** 指示を出す。
指示は「指示2つ+質問1つ」または「指示3つ」とする。
※慣れてきたら、トレーニング時間を2分、3分とのばしてみましょう。

【例：指示の出し方】

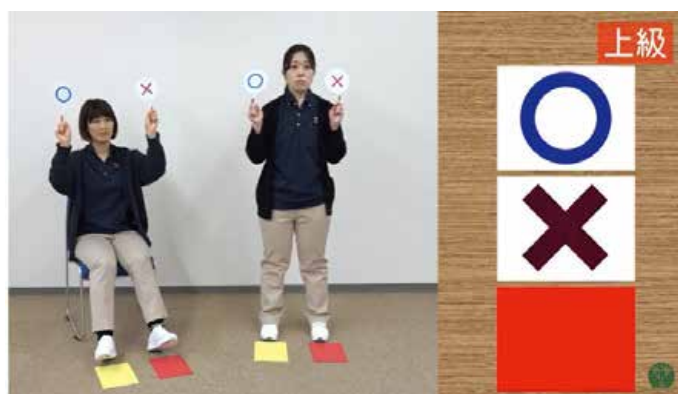
- ・ 指示2つ+質問1つのパターン
「○、赤、明日の日付」「×、黄色、動物の名前」
- ・ 指示3つのパターン
「○、×、黄色」「×、赤、黄色」

【例：質問】

色の名前、スポーツの名前、動物の名前、明日の日付
今の季節、今何時、魚の名前、鳥の名前、国の名前
昨日の天気、首都の名前、野菜の名前、料理の名前
昨日食べたもの、今日の服の色、一昨日の日付
県の名前、飲物の名前、果物の名前、最近行ったお店
今朝起きた時間、好きな色、駅の名前

- ③ 指示を受ける人は、手に持った札を上げたり、足下の色紙を踏んだり、指示の通りに行動する。
質問が出たら、素早く答える。
※答えが複数ある場合でも1つだけ答える。

- ④ 正解した数を記録する。
※トレーニングの様子を動画に撮ったり、指示を出す人に数えてもらったりすると記録しやすいでしょう。



動画を見ながら一緒に
トレーニングできます



動画 (YouTube)

例

日付	正答数	感想など
1/1	36 個	2分続けるのが辛かった
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	

日付	正答数	感想など
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	
/	個	



お問い合わせ

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター

〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森16番地243

TEL : 019-692-5800 FAX : 019-692-5807

MAIL : koujinou-shien-reha@irc.or.jp

HP : <https://www.irc.or.jp/koujinoukinoushougai/>

この冊子は岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業の一環で作成したものです。

Ⅲ 岩手県内の支援拠点機関一覧

1. 岩手県支援拠点機関

名 称	所在地	電話番号
いわてリハビリテーションセンター	雫石町七ツ森 16-243	019-692-5800

2. 地域支援拠点機関（令和3年度）

圏域	名 称	所在地	電話番号
宮古	相談支援事業所れいんぼー	宮古市緑ヶ丘 2-3	0193-64-7878
気仙	地域活動支援センター星雲 相談室	大船渡市盛町字東町 11-12	0192-21-1305
二戸	地域生活支援センター ・カシオペア	二戸市石切所字川原 46-1	0195-23-6608
久慈	地域生活支援センター久慈	久慈市門前第1地割 151-1	0194-52-8177
釜石・ 大槌	地域活動支援センター釜石	釜石市定内町一丁目 8-10	0193-21-1156
胆江	金ヶ崎町障がい者基幹相談 支援センター	金ヶ崎町西根南羽沢 43 (金ヶ崎町福祉センター内)	0197-44-6060
	奥州市基幹相談支援センター	奥州市水沢横町 2-1 メイプル地下1階	0197-34-2160
盛岡	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ	盛岡市中野一丁目 1-26	019-652-1137
岩手 中部	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ県南支部	盛岡本部にご連絡ください	
両磐	居住地の役場障がい福祉担当課、または担当の相談支援専門員等にご相談ください。		

令和4年度 高次脳機能障がい支援担当者名簿

No.	職名	氏名	担当
1	副センター長 兼地域支援部長	今野 秀一	事業統括
2	地域支援部副部長	高橋 真由美	地域支援
3	看護部長	古舘 郁子	イーハトーヴ支援、当事者交流会
5	作業療法士	吉田 雄哉	HP・メールニュース・支援ツール、当事者交流会
6	言語聴覚士	菅原 慎	研修、HP・メールニュース・支援ツール
7	主任臨床心理士	吉田 賢史	相談支援、研修、HP・メールニュース・支援ツール
8	臨床心理士	村田 美歩	相談支援、HP・メールニュース・支援ツール
9	臨床心理士	藤根 摩美	イーハトーヴ支援、当事者交流会
10	総合相談科長	上田 大介	相談支援、地域支援、研修、HP・メールニュース・支援ツール、イーハトーヴ支援、当事者交流会、事務局
11	医療社会事業士	阿部 泰子	研修、HP・メールニュース・支援ツール
12	医療社会事業士	佐々木 春美	HP・メールニュース・支援ツール、当事者交流会
13	医療社会事業専門員	大江 みづほ	相談支援、地域支援、研修、HP・メールニュース・支援ツール、イーハトーヴ支援、当事者交流会、事務局

【編集後記】

当事業の実施にあたり、今年度も県内外問わずたくさんの方にご協力・ご尽力いただきました。心より感謝申し上げます。

2022 年度も新型コロナウイルスの影響を受け連絡協議会、各研修会など主に Web 形式で実施させていただきました。しばらくは感染症の状況を鑑みて形式を模索し続けていくと思われませんが、どのような形であれ皆様と顔を合わせながら事業を運営できるよう努めて参りたいと思います。加えて、大変な時期を皆様と共に乗り越えたということをいつの日か笑って話せたら良いなと感じております。

今後も「高次脳機能障害」の理解や支援が拡大していくよう尽力して参ります。今後とも何卒よろしく願いいたします。

(後藤敦博)

2022 年度

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業及び
高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業報告書

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター
〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森 16-243

T E L 019-692-5800

F A X 019-692-5807

E-mail koujinou-shien-reha@irc.or.jp

H P <http://www.irc.or.jp/koujinoukinoushougai/>

